

羽場久美子名誉教授 略歴と業績

羽場 久美子 (はば くみこ)

青山学院大学 国際政治経済学部 教授

青山学院大学大学院 国際政治経済学研究科国際政治学専攻 教授

国際関係学・博士

〈主な役職〉

世界国際関係学会 (International Studies Association: ISA-本部 USA)

Asia Pacific 会長 President (2021–24)

世界国際関係学会 (ISA-USA) Asia Pacific 副会長 Vice President (2018–21)

世界国際関係学会 (ISA-USA) 副会長 Vice President (2016–18)

世界国際関係学会 (ISA-USA) 女性の地位向上執行委員 Committee on the Status of Women (2019–21), ISA 女性会議執行委員 Women's Caucus (2017–19)

世界国際関係学会 (ISA-USA) ENMISA 民族移民研究執行委員 (2017–19)

世界国際関係学会 (ISA-USA) Governing Council (執行委員会役員) (2003–05)

青山学院大学グローバル国際関係研究所所長 (2020–21)

JAICOWS (日本女性科学研究者の環境改善に関する懇談会) 会長 (2015–21)

アジア太平洋 EU 学会 (本部 New Zealand) 2017 東京大会 委員長 (2016–17)

京都大学 経済研究所 客員教授 (2017–21), プロジェクト教授 (2017–22)

ハーバード大学 (WCFIA) 国際問題研究所客員研究員 (2011–12), ソルボンヌ

大学 Panthéon (IHIR) 国際関係系研究所客員研究員 (2004), 欧州大学研究所

(EUI) 客員研究員 (2008), ロンドン大学 (SEES, LSE) スラヴ東欧研究所,

LSE 客員研究員 (1995–96), ハンガリー科学アカデミー (TTI) 歴史学研究所

客員研究員 (2002, 1994–95, 1978–80)

ロシア・サンクトペテルブルク国立大学 招聘教授 (2017–19)

中国・浙江大学 招聘教授 (2019), 南京大学, 政法大学, 外交学院, 招聘講演。

インド・社会科学院・日本学術会議 学術共同研究 (2019-22)。
アメリカ・ジョンズ・ホプキンス大学, ドイツ研究所, 「和解」共同研究。
日本政府観光局 (JNTO) MICE アンバサダー (2019-現在) (社会科学初)
日本国際フォーラム参与・有識者議員 (2011-現在)
東アジア共同体評議会 (CEAC) 副議長・有識者議員 (2011-現在)
日本国際政治学会理事, 日本政治学会理事, 日本 EU 学会理事, 日本ロシア・東欧学会理事 (元事務局長), スラヴ東欧学会理事等を歴任。
欧州連合 (EU) ジャン・モネ・チェア (その国を代表する EU 研究者の称号) (2005-終身), 法政大学大学院附置ヨーロッパ研究所 所長 (2005-07)

政府省庁: 以下の委員を委嘱

日本学術会議 (内閣府直屬) 第 1 部会員 (2011-17), 政治学委員会副委員長, 地域研究委員会副委員長, 国際会議選考委員会委員, 比較政治分科会委員長, アジア地域協力と学術ネットワーク構築分科会委員長, 国際政治分科会幹事, 地域統合分科会委員長 (2011-17), 政治学研究連絡会議幹事 (2002-5), 連携会員 (2005-11, 2017-23),

文部科学省 大学設置審議会委員, 文部科学省・日本学術振興会 科学研究費審査委員会委員, 文部科学省・日本学術振興会 若手優秀特別研究員選考委員 (DC, PD, SPD) 文部科学省 大型研究 COE (Center of Excellence) 審査委員, 文部科学省 大学院博士課程リーディングプログラム審査委員, 文部科学省中央教育審議会 (中教審) 委員 (「歴史総合」および「公共」)

財務省・国際通貨研究所 通貨統合研究会委員 (2002-5)

内閣府・外務省 欧州局共同会議委員, EU-Japan People to People 海外交流委員, EU/ASEM 共同会議委員。

内閣府調査室, European Union 研究会委員。参議院 学術調査委員会委員・講演。専門は, 国際関係学, 国際政治学, ヨーロッパ国際政治, 国際社会論。拡大 EU 研究, 移民・マイノリティ研究。地域統合論, 比較政治学, 冷戦史研究, ナショナリズム論, 民主化論, 中欧・東欧政治史。

1. 〈学 歴〉

- 1971年3月31日 三重県立 四日市高校卒業
- 1971年4月1日 津田塾大学 学芸学部国際関係学科 入学
- 1975年3月31日 津田塾大学 学芸学部国際関係学科 卒業
- 1975年4月1日 津田塾大学 大学院国際関係学研究科修士課程 入学
- 1977年3月31日 津田塾大学 大学院国際関係学研究科修士課程 修了
津田塾大学 大学院より、国際関係学修士号 取得
- 1977年4月1日 津田塾大学 大学院国際関係学研究科博士課程 入学
- 1978年9月1日 日本文部省・政府交換留学スカラシップを得て、ハンガリー科学アカデミー・歴史学研究所へ留学、客員研究員(1978年9月1日ー1980年3月31日まで、1年半)
- 1981年3月31日 津田塾大学大学院国際関係学研究科博士課程 単位取得後退学
- 1987年10月21日 津田塾大学大学院より、学術博士号(国際関係学)取得・国際関係学・博士

2. 〈職 歴〉

- 1981年4月1日 津田塾大学学芸学部国際関係学科 研究助手(1983年3月31日まで2年間)
- 1983年4月1日 日本学術振興会 奨励研究員(1年間)
津田塾大学国際関係学科 非常勤講師(1991年3月31日まで7年間)
学習院大学法学部 非常勤講師(1987年3月31日まで4年間)
- 1984年4月1日 東京大学教養学部 後期課程 非常勤講師(1992年3月31日まで9年間)
- 1985年4月1日 法政大学社会学部 専任講師
東京外国語大学アジアアフリカ研究所共同研究員(1987

青山国際政経論集

- 年 3 月 31 日まで 2 年間)
- 1987 年 4 月 1 日 法政大学社会学部 助教授
- 1991 年 4 月 1 日 一橋大学社会学部 非常勤講師 (1993 年 3 月 31 日まで 2 年間)
- 1992 年 4 月 1 日 早稲田大学社会科学研究所 特別研究員 (1994 年 3 月 31 日まで 2 年間)
- 1994 年 4 月 1 日 法政大学社会学部 教授
- 1994 年 9 月 1 日 国際文化会館 (新渡戸稲造基金)・国際交流基金より日本社会科学国際フェローシップを得, ハンガリー科学アカデミー歴史学研究所, (MTA, TTI) にて 1 年間, イギリス・ロンドン大学スラヴ東欧研究所 (SSEES), LSE にて 1 年間, 客員研究員 (1996 年 8 月 31 日まで 2 年間)
- 1997 年 4 月 1 日 法政大学社会学部 副主任 (1998 年 3 月 31 日まで 1 年間)
- 法政大学・21 世紀大学改革委員会委員 (2000 年 3 月 31 日まで 4 年間)
- 東京大学文学部西洋史 非常勤講師 (1999 年 3 月 31 日まで 2 年間)
- 1999 年 4 月 1 日 大阪外語大学にて集中講義 (2000 年 3 月 31 日まで)
- 1999 年 4 月 1 日 法政大学創立 120 周年国際シンポジウム実行委員 (2001 年 3 月 31 日まで)
- 2001 年 4 月 1 日 法政大学社会学部 教授会 主任 (2002 年 3 月 31 日まで)
- 法政大学社会学部 50 周年記念行事実行委員長
- 2002 年 4 月 1 日— 京都大学大学院人文科学研究科 COE 客員研究員 (—2004 年 3 月 31 日まで)
- 慶応大学法学部 ヨーロッパ国際政治 非常勤講師 (—2011 年 3 月 31 日まで)

羽場久美子名誉教授 略歴と業績

- 東京大学 DESK, 教養学部 EU 論 非常勤講師
(—2005 年 3 月 31 日まで)
- 2002 年 4 月 1 日— 慶應義塾大学大学院総合政策研究科 (SFC) 博士論文,
外部審査委員 (—2008 年 3 月まで 7 年間)
- 2003 年 3 月から 9 月 フランス・ソルボンヌ大学第 1, 国際関係史研究所にて,
客員研究員
- 2003 年 4 月 1 日— 一橋大学大学院法学研究科・法学部 非常勤講師
(—2004 年 3 月 31 日まで)
- 2004 年 4 月 1 日— 一橋大学 EUIJ 共同研究員
京都大学大学院文学研究科・文学部非常勤講師
(—2006 年 3 月 31 日まで)
- 2005 年 4 月 1 日— 慶応大学法学部 非常勤講師 (—2011 年 3 月 31 日)
- 2005 年 9 月 1 日— EU 本部よりジャン・モネ・チェア (その国で代表的な
EU 研究者) のグラントを授与。
- 2005 年 11 月 1 日— 法政大学大学院附属特定課題研究所, ヨーロッパ研究所
所長 (—2007 年)
関西学院大学大学院, 慶応大学総合政策大学院にて,
博士論文 外部審査委員 (2008 年 3 月まで)。
- 2007 年 3 月 31 日 法政大学社会学部を退職
- 2007 年 4 月 1 日より 青山学院大学国際政治経済学部, 大学院国際政治経済学
研究科 国際政治学専攻 教授
- 2008 年 4 月 1 日より 青山学院大学総合研究所プロジェクト, 研究代表
東京大学教養学部 講師,
一橋大学大学院 公共政策大学院 EU 集中講義, 講師
(現在まで)
慶応大学法学部 講師 (2011 年 3 月まで)
- 2011 年 9 月 1 日より ハーバード大学国際問題研究所 (WCFIA), 欧州研究セ

青山国際政経論集

ンターにて、客員研究員（—2012.9 まで1年間）

2014年4月1日より2017年3月 青山学院大学大学院 国際政治経済学研究科 国際政治学専攻 専攻主任

2017年4月1日より2022年3月 京都大学経済研究所、客員教授、プロジェクト教授

2019年12月—現在まで 日本政府観光局（JNTO）MICEアンバサダーに就任（人文社会科学初、女性4人目）

2020年4月—21年3月まで EU, European Commission, Erasmus Mundus（欧州連合研究教育）資金獲得

2020—21年 青山学院大学グローバル国際関係研究所 所長

2021年3月31日 退職。名誉教授に就任。

2021年4月1日 神奈川大学みなとみらいキャンパス 国際日本学部教授に就任

3. 〈学外 学会、政府・省庁・学術会議 関係役職〉

1975年 東欧史研究会 創設委員。以後、企画委員・会計・編集委員を担当

1981年 歴史学研究会 委員（2年間）

1992年 日本西洋史学会 開催校 実行委員

1997年— ロシア・東欧学会 理事（—現在会計監事）

1998年— 日本国際政治学会 評議員、会計副主任

1999年— ロシア・東欧学会 理事、1999年大会企画委員

2000年— 日本国際政治学会 理事（—2006.11 まで） 運営委員会委員、会計主任、基盤委員会委員

2000年— 歴史科学協議会 編集委員（—2016年まで）

2000年— JSSEES（日本スラブ東欧学会） 理事（—2018年まで）

2001年 JSSEES 2001年大会開催校 実行委員長

2001年 国際歴史学会 国際関係史学会（CHIR）日本支部委員

羽場久美子名誉教授 略歴と業績

- 2001 年 JETRO (日本貿易振興会) 欧州拡大研究会委員 (—2006 年まで)
- 2002 年 ロシア・東欧学会 理事, 2002 年大会企画委員長
- 2002 年— 日本 EU 学会 理事 (—現在まで)
- 2002 年— 日本国際政治学会 理事, 運営委員会委員, 会計主任, 対外交流委員, 基盤委員会委員
- 2002 年— JICA (日本国際協力事業団), 中・東欧援助検討会委員 (—2003 年まで)
- 2002 年— 京都大学大学院文学研究科 21 世紀 COE プログラム・外部メンバー
- 2002 年— 日本学術会議 第 19 期 政治学研究連絡会議委員, 幹事 (2005 年まで)
- 2002 年— 日本内閣府 調査室 ヨーロッパ (EU) 研究会 委員 (2006 年まで)
- 2003 年— ロシア・東欧学会 理事, 事務局長 (—2009 年まで)
- 2003 年— ハンガリー友好協会 理事 (—現在まで)
- 2003 年— ISA (世界国際関係学会) Non-American Governing Council 執行委員会役員 (アメリカ: 2005 年まで)
- 2004 年— 一橋大学 EUIJ (日本 EU インスティテュート) 協力メンバー, COE 協力メンバー
- 2004 年— 日本国際政治学会 理事 (2006・11 まで), 会計主任, ニューズレター委員会主任, 国際交流委員
- 2005 年— EU 欧州委員会本部より, 日本を代表する EU 研究者として Jean Monnet Chair (ジャン・モネ・チェア) 称号とグラント授与 (終身)
- 2005 年— 日本内閣府・外務省欧州局, 日本・EU 市民交流年 海外交流委員 (小泉首相, 奥田経団連会長) (2 年間, 2007 年まで)
- 2005 年— 日本学術会議 第 20 期, 政治学委員会 (国際政治), 地域研究委員会 連携会員 (2008 年まで)

- 2006 年— 日本財務省，国際通貨研究所 拡大 EU 研究会委員（2007 年
まで）
日本学術振興会 科学研究費 審査委員（国際関係学）
- 2008 年— 日本政治学会理事，2010 年書評委員会委員長
- 2008 年— 国際アジア共同体学会理事，編集委員会委員
- 2008 年— 東アジア共同体評議会，有識者会議 評議員
- 2008 年— 日本学術会議 第 21 期 政治学委員会，地域研究委員会，
史学委員会，連携会員（2011 年まで）
- 2009 年—11 年 日本学術振興会 科学研究費 審査委員（地域研究）
同志社大学法学部・法学研究科 大学評価 第 3 者審査委員
会委員
駐日欧州連合代表部，5 大使館（ドイツ大使館，オーストリア
大使館，ハンガリー大使館，ポーランド大使館，リトアニア
大使館），朝日新聞社と共催，日本外務省の後援により，
「冷戦終焉 20 年」の国際会議を開催（2009 年 11 月）
世界国際関係史学会（CHIR）主催により，ヨーロッパ・アジ
ア諸国と共同で，CHIR 東京大会開催（2009 年 12 月）
- 2010 年— 日本外務省欧州局日 EU 共同宣言起草準備委員会 有識者
相談員
日本外務省欧州局 ASEM 室との共同国際会議 検討準備
（欧州とアジア）
日本文部科学省 大学設置審議会 評価委員
国際アジア共同体学会 副代表（外務省・EU 代表部・本部
との協力，若手院生の育成担当）
東アジア共同体評議会と国際アジア共同体学会 連携代表委
員
東アジア共同体評議会（伊藤憲一理事長・議長），副議長。
政策本会議委員会委員。

羽場久美子名誉教授 略歴と業績

- 中国・韓国・ASEAN 諸国, クーデンホーフ・カレルギー伯, EU 代表部, ドイツ大使館などと共同で, 「EU に学ぶ東アジア共同体国際会議」を開催 (2010 年 3 月)
- 2011 年 3 月 日本文部科学省, 科学研究費 審査委員委嘱 (国際関係学)。日本外務省欧州局より, 日・EU/ASEM 関係報告のため, ハンガリー・ブダペシュト出張
- 日本外務省総合政策局より, 日・インド官民共同研究に派遣, SAARC, ASEAN など調査。
- 8 月 日本政府公認の, ASEAN+3 のシンクタンク協議機関, NEAT (The Network of East Asian Think-tanks 東アジア・シンクタンク・ネットワーク) へ派遣。
- 2011 年 9 月—2014 年 9 月 日本学術会議 第 22 期, 第 1 部会員 (政治学), 地域研究委員会副委員長, 政治学委員会幹事, 国際交流委員会委員, 歴史認識・ジェンダー委員会委員
- 2011 年 日本文部科学省, 大学設置審議会 評価委員 (2 年間, 4 年間) 日本文部科学省, 科学研究費 審査委員。日本学術振興会 博士リーディングプロジェクト大型研究費 審査委員 (ハーバード大学 客員研究員として, 在外研究)
- 2013 年 日本文部科学省, 大学設置審議会 評価委員 (2 年間)
- 2014 年 9 月—2017 年 9 月 日本学術会議 第 23 期, 第 1 部会員 政治学委員会副委員長, 地域研究委員会幹事, 比較政治学分科会委員長, アジアの地域協力と学術ネットワーク構築分科会委員長, ジェンダーと政治分科会委員長, 地域統合分科会委員長
- 2015 年 4 月 日本学術振興会, 特別研究員 (DC, PD, SPD) 等審査会 審査委員 (2 年間)
- 2015 年 12 月 世界国際関係学会 (ISA) Vice President elected 副会長に選出
- 2016 年 3 月 世界国際関係学会 (ISA) Vice President 副会長 (—2018)
- 2016 年 グローバル国際関係研究所所長 (一現在まで)

- 2016年4月 アジア太平洋 EU 学会 2017年東京大会実行委員長に選出
- 2017年7月 アジア太平洋 EU 学会 2017年東京大会 President 実行委員長
- 2017年9月－2020年9月 日本学術会議第24期、連携会員、アジアの地域協
力と学術ネットワーク構築分科会委員長、国際政治分科会幹
事、地域研究分科会幹事
- 2018年4月－21年 世界国際関係学会 (ISA-USA) アジア太平洋 副会長
(ISA, Asia Pacific Region, Vice President)
- 2018-19年 日本学術振興会、科学研究費審査委員
- 2020年1月 日本政府観光局 (JNTO) MICE アンバサダー
- 2020年9月－23年9月 日本学術会議第25期 連携会員、アジア地域協力と
学術ネットワーク構築分科会委員長 国際政治分科会委員、
地域基盤強化分科会委員
- 2021-24年 世界国際関係学会 (ISA-USA) アジア太平洋 会長 (ISA,
Asia Pacific Region, President)

4. 〈賞 与〉

- 2000年 ハンガリー文部大臣より、建国1000年祭のフェスティバル
に際し、学術研究奨励賞。
- 2005年 欧州連合 (EU) 欧州委員会本部より、日本を代表する EU 研
究者として、ジャン・モネ・チェアの称号とグラント授与。

2021.3.31

5. 〈研究業績一覧〉

著書と和文・英文，雑誌論文，学会・国際会議報告，外部研究資金獲得など。

羽場 久美子

〈著書〉 1) 単著 9 冊， 2) 英文 16 冊（編著）， 3) 和文編著 15 冊， 4) 和文共著 24 冊， 5) 翻訳書 6 編， 6) 事典編纂 2・共同執筆 14 編 = 計 72 冊 + 14 編

1) 〈単著〉 9 冊

9. 『ヨーロッパの分断と統合——拡大 EU のナショナリズムと境界線——包摂か排除か』中央公論新社，2016 年，390p.
8. 『拡大ヨーロッパの挑戦——グローバルパワーとしての EU』中央公論新社，2014 年，増補版，278p.
7. (中国語訳書)『全球化時代の亜州区域連合』中央編譯出版社，2014 年，117 頁。(羽場久美子『グローバル時代のアジア地域統合——日米中関係と TPP のゆくえ』岩波書店，2012 年 70 頁，出版社査読有，の翻訳)。中国出版社査読有。
6. 『グローバル時代のアジア地域統合——日米中関係と TPP のゆくえ』岩波ブックレット，2012 年。70p.
5. 『拡大ヨーロッパの挑戦——アメリカに並ぶ多角的パワーとなるか』中央公論新社，2004，2006 年 2 刷，258p.
4. 『グローバリゼーションと欧州拡大——ナショナリズム・地域の成長か』御茶ノ水書房，2002，2005 年 2 刷，63p.
3. 『拡大するヨーロッパ 中欧の模索』岩波書店，1998，2005 年 4 刷。229p. + 7p.
2. 『統合ヨーロッパの民族問題』講談社現代新書，1994，2004 7 刷。250p.
1. 『ハンガリー革命史研究——東欧におけるナショナリズムと社会主義——』勁草書房，1989 年。508 + 58p.

2) 〈英文 編著 11 + 共著 5〉 16 冊

〈英文編著〉 11 冊 Proceedings 含む

11. *Brexit and After- Perspectives on European Crisis and Reconstruction from Asia and Europe*, Eds. by Kumiko Haba and Martin Holland, EUSA Asia Pacific, Springer, 2020. 213p
(Kumiko Haba, Introduction, v-x, “Post-Brexit and Post-Corona: The UK, the EU and Central East Europe: ‘Illiberal Democracy’ and the Influence of China,” pp. 17–40.)
10. *100 years of World Wars and Post-War Regional Collaboration and Good Governance—How to Make New World Order?* Ed. by Kumiko Haba, Science Council of Japan, Aoyama Gakuin University and Kyoto University, 2020. 230p.
(Kumiko Haba, Introduction, 3–1. “The United States’ Different Strategies of “New World Order” between Europe and Asia in the Postwar Period”, pp. 1–2, 80–96.)
9. *Resolving Regional Conflicts and Building Peace and Prosperity*, Ed. by Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University, 2019.
(Kumiko Haba, Introduction, Chap.3. Kumiko Haba, “Conflict and Economic War between the USA and China—Power Transition and the War in East Asia—”, Chap.8. Kumiko Haba, “Ukraine, Divided Nation between the EU/NATO and Russia”, pp. 1–3, 19–28, 85–104)
8. *The Unwinding of the Globalist Dream*, Eds. by Steven Rosefielde, Masaaki Kuboniwa, Satoshi Mizobata, Kumiko Haba, World Scientific, New Jersey, London, Singapore, 2017.
(Chap.5. Kumiko Haba, “Immigrants, Xenophobia and Terrorism”, pp. 97–110, Kumiko Haba and Steven Rosefielde, “Asian Power Shift”, pp. 349–360.)
7. *The Euro Crisis and European Political Economy, —France, Germany and*

- Central Europe*—, Eds. by Robert Boyer, Ivan T. Berend, and Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University, Tokyo, 2013. 226p
6. *Great Power Politics and the Future of Asian Regionalism, at Harvard University*, Ed. by Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University Tokyo, 2013. 128p
 5. *Asian Economic Development and Collaborative Relations among EU, Asia and Japan*, Eds. by Kumiko Haba, Szerdahelyi István, Brij Tankha & Wang Min, Aoyama Gakuin University, 2012. 194p.
 4. *The Regional Integration and Institutionalization comparing Europe and Asia*, Eds. by G John Ikenberry, Yoshinobu Yamamoto, and Kumiko Haba, Shokado, Kyoto, 2012. 284p.
 3. *The Regional Integration in Asia and Europe: Theoretical and Institutional Comparative Studies and Analysis*, Eds. by G. John Ikenberry, Yoshinobu Yamamoto, and Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University, 2011. 177p.
 2. *The End of the Cold War and the Regional Integration in Europe and Asia*, Eds. by Robert Frank, Kumiko Haba and Hiroshi Momose, Aoyama Gakuin University, 2010. 451p. (Proceedings Book on the International Conference of the End of the Cold War and the Regional Integration in 2009)
(Kumiko Haba, “The Origin of the Cold War and Eastern Europe”, pp. 193–215.)
 1. *EU Enlargement towards Central Europe and the Role of Japanese Economy*, Eds. by Kumiko Haba, Tibor Palankai, and János Hoos, Aula, Budapest, Hungary, 2002. 237p.
(Kumiko Haba, “European Union/NATO Enlargement and Central Europe: The Kosovo Bombing and the Radical Right”, pp. 86–98.)
- 〈英文共著〉 5冊
5. *50 Years Rome Treaty and EU-Asia Relations*, Ed. by Chong-ko Peter Tzou, Tamkang University, Taiwan, July 2008. 394p.

(Kumiko Haba, “The Lesson of the EU Enlargement and the East Asian Community and Shanghai Cooperative Organization—What and How we can learn from the European Integration?” pp. 269–274.)

4. *Melting Boundaries, Institutional Transformation in the Wider Europe*, Eds. by Kiichiro Yagi and Satoshi Mizobata, Kyoto University Press, Kyoto, 2008. 376p.

(Kumiko Haba, “EU Enlargement, Border Question and Wider Europe”, pp. 331–352.)

3. *Intercultural Dialogue and Citizenship, Translating Values into Actions, A Common Project for Europeans and Their Partners*, Eds. by Leonce Bekemans, Maria Karasinska-Fendler, Marco Mascia, Antonio Papisca, Constantine A. Stephanou, Peter G. Xuereb, Marsilio, Venice, Italy, 2007. 665p.

(Kumiko Haba, “Democracy, Nationalism and Citizenship in the Enlarged EU, The Effects of Globalisation and Democratisation”, pp. 601–620.)

2. *Globalization, Regionalization and the History of International Relations*, Eds. by Joan Beaumont, Alfredo Canavero, Commission of History of International Relations, Edizioni Unicopli, Deakin University, Milano, Victoria, Australia, 2005. 512p.

(Kumiko Haba, “The Central and Eastern Europe Nationality problem and Regional Cooperation under the EU and NATO Enlargement”, pp. 91–100.)

1. *Russia and NATO: New Areas for Partnership, The papers of the International Conference*, February 6–7, 2004. St. Petersburg State University Press, Russia, 2004. 105p.

(Kumiko Haba, “NATO Enlargement and the Iraq War, Central and Eastern Europe under the Influence of the EU/NATO”, pp. 44–52.)

〈和文 編著 15 + 共著 24〉: 39 冊

3) 〈和文編著〉15 冊

15. 羽場久美子編著『移民，難民，マイノリティ——欧州ポピュリズムの根源』彩流社，2021.2. 414p. 編者査読有
(羽場久美子「序論 移民・難民問題は何を提起しているか——欧州ポピュリズムの根源」 pp9-53.)
14. 羽場久美子編著『21世紀，大転換期の国際社会』法律文化社，2019.1. 172p. 編者査読有
(羽場久美子「プロローグ：危機は打開できるのか?」「序章 いま国際社会で何が起きているのか?」「第1章 なぜ移民・難民が世界にあふれているのか?」 pp. 1-19)
13. 羽場久美子編著『アジアの地域共同——未来のために』明石書店，2018. 395p. 編者査読有
(羽場久美子「はじめに」，羽場久美子「第1章 アジアの信頼醸成と和解——アメリカの対アジア戦略」 pp. 13-46.)
12. 羽場久美子編著『アジアの地域協力——危機をどう乗り切るか』明石書店，2018. 321p. 編者査読有
(羽場久美子「アジア太平洋の国際関係と中国・北朝鮮——対立をいかに共同に変えるか」 pp. 13-34)
11. 羽場久美子編著『ハンガリーを知るための60章——ドナウの宝石』明石書店，2018. 366p. 第2版，査読無
10. 羽場久美子編著『アジアの地域統合を考える——戦争をさけるために』明石書店，2017年。
(羽場久美子「アジアの地域統合と共同シンクタンク構想」 pp. 16-40.)
9. 羽場久美子編著『EU (欧州連合)を知るための63章』エリアスタディーズ，羽場久美子編著，明石書店，2013.9. 400p. 5版(2017年)(羽場久美子「欧州における2000年の対立と統合」「欧州統合の父，ターデンホーフ・カレルギー」「第2次世界大戦後の統合と和解——屍の上の統合」「マーシャルプランの実行」「東欧のドミノ革命とヨーロッパ回帰」「ヨーロッパの東への拡大と今後の課題」「ハンガリーとEU」「EUはどこまでか」「EUと

- ゼノフォビア」[「グローバルパワー・知のネットワークとしての EU」]
8. 山本吉宣・羽場久美子・押村高編著『国際政治から考える東アジア共同体』ミネルヴァ書房, 2012年。303p.
 7. 羽場久美子・溝端佐登史編著『ロシアと拡大 EU』世界政治叢書, ミネルヴァ書房, 2011年。351p.
(羽場久美子 序「冷戦終焉 20年とヨーロッパの危険地域欧」, および「拡大 EU と中・東欧の「民主化」」)
 6. 羽場久美子・小森田秋夫・田中素香編著『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店, 361+10p。2006年²刷。
(羽場久美子「総論 ヨーロッパの拡大——グローバリズムとナショナリズムの相克」 pp. 1-28.)
 5. 羽場久美子編『新しいヨーロッパ——拡大 EU の諸相』日本国際政治学会, 2005年。78+16p.
(羽場久美子「新しいヨーロッパ, 拡大 EU の諸相」 pp. 1-17)
 4. 羽場久美子・増田正人編著『21世紀国際社会への招待』有斐閣, 246p。2003, 2006年²刷。
(羽場久美子「地域統合とグローバリゼーション: EU・NATO の東方拡大」 pp. 46-54.)
 3. 羽場久美子編著『ハンガリーを知る 47章 ドナウの宝石』明石書店, 348p。2002, 2003年²刷。
 2. 宮島喬・羽場久美子編著『ヨーロッパ統合のゆくえ』人文書院, 293p。2001, 2005年³刷。
(羽場久美子, 序論, 「EU・NATO の拡大と中欧——『境界線上』の民族——」 pp. 11-24, 51-82.)
 1. 羽場久美子編著『ロシア革命と東欧』彩流社, 1990年。200p。
(羽場久美子, 序論, 「ロシア革命と東欧」10-21p. 「ハンガリー近代における知識人と『民族』」 pp. 114-138.)

- 4) 〈和文共著〉24 冊
24. JAICOWS (女性科学研究者の環境改善に関する懇談会) 編『非常勤講師はいま! — コロナ禍をこえて —』2021 年 102p.
(羽場久美子「『博士 100 人の村』と非常勤講師の現状 — コロナ禍をふまえて —」 pp 5-16, I. 調査の概要 pp 19-20, JAICOWS とは pp 100-101)
23. 金香男編著『アジア共同体への信頼醸成に何が必要か — リージョンリズムとグローバリズムの狭間で』ミネルヴァ書房, 2016 年
22. 久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編著『歴史を読み替える — ジェンダーから見た日本史』山川出版社, 2015 年, 278 頁。査読有
21. 三成美保・姫岡とし子・小浜正子編著『歴史を読み替える — ジェンダーから見た世界史』山川出版社, 2014 年, 314 頁。査読有
20. 大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一編『ハプスブルク史研究入門 — 歴史のラビリンスへの招待』昭和堂, 2013. 336 頁。
(羽場久美子「ハプスブルク君主国と EU — ドナウ連邦構想」)
19. 孫崎享『検証尖閣問題』岩波書店, 2012.
(羽場久美子・岩下明裕・孫崎享「領土問題と東アジアの共同発展」280p. pp. 189-222.)
18. 『安全保障・戦略文化の比較研究』日本国際政治学会, 2012.1. no. 167. 161 頁。
(羽場久美子「ヨーロッパの危険地帯」, 中・東欧とバルカンの「戦略文化」)
17. 『歴史の教訓と社会主義 — ソ連崩壊 20 年シンポジウムから』ロゴス, 2012. 284p. pp. 118-141.
(羽場久美子「ソ連の崩壊を西欧はどう受け止めたか? 中国はなぜ崩壊しないか? 「民主主義」と全体主義に関する考察」)
16. 宮島喬・吉村眞子編著『移民・マイノリティと変容する世界』法政大学出版局, 2012. 262p.
(羽場久美子「EU の拡大とトラフィッキング」 pp. 99-122.)
15. 押村高・中山俊宏編著『世界政治を読み解く』ミネルヴァ書房, 2011 年。

348 頁。

(羽場久美子「拡大 EU というガバナンス」)

14. 『東アジア共同体と日本の戦略——何をどう進めるべきか』 監修進藤榮一，協力 中川十郎，桜美林大学北東アジア総合研究所，2011 年。107 頁。
(羽場久美子「日中和解を基礎に繁栄探れ」)
13. 長野ひろ子，姫岡とし子編著『歴史教育とジェンダー』青弓社，2011 年，285p. 査読有
(羽場久美子「世界史の周辺におけるジェンダー」)
12. 日本政治学会編『特集：ジェンダーと政策決定』『年報 政治学』木鐸社，2010 年。2010-II 卷，
(羽場久美子「グローバリゼーションとトラフィッキング——実態と戦略」174-193.) 査読有
11. 山内進編著『ヨーロッパのフロンティア』国際書院，2008 年。316p.
(羽場久美子「拡大 EU のフロンティア—ポスト冷戦秩序の再構築・規範と現実」 pp. 75-110.)
10. 山内進・大芝亮編著『衝突と和解のヨーロッパ——ユーロ・グローバリズムの挑戦』ミネルヴァ書房，2006 年。318p.
(羽場久美子「EU・NATO の拡大とイラク戦争——中・東欧の加盟とアメリカの影響」 pp. 135-166.)
9. 田中俊郎・庄司克宏編著『ヨーロッパの軌跡とベクトル』慶応大学出版会，2006 年。409p.
(羽場久美子「拡大 EU とナショナリズム——民主化とグローバル化の帰結」 pp. 83-110.)
8. 菅英輝・石田正治編著『21 世紀の安全保障と日本』ミネルヴァ書房，2005 年 7 月。376p.
(羽場久美子「NATO の東方拡大と欧州の安全保障——コソヴォ空爆からイラク戦争へ：アメリカの影」 pp. 150-175.)
7. 森井裕一編著『国際関係の中の拡大 EU』信山社，2005 年 2 月。326p.

- (羽場久美子「拡大EUと中・東欧, ワイダー・ヨーロッパ」 pp. 225-249.)
6. 日本EU学会編『EUの東方拡大』日本EU学会年報, 2004年第24号, pp. 1-23.
 5. 谷川稔編著『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』山川出版社, 2003年。329p.
(羽場久美子「EUの拡大と『中欧』認識の揺らぎ」 pp. 197-218.)
 4. 日本比較政治学会編『EUの中の国民国家: デモクラシーの変容』早稲田大学出版部, 2003。207p.
(羽場久美子「ヨーロッパ拡大とハンガリーおよび周辺地域マイノリティの『民主化』」 pp. 173-200.)
 3. 中村政則・油井大郎・豊下楯彦編著『占領改革の国際比較: 日本・アジア・ヨーロッパ』三省堂, 1994年。403p.
(羽場久美子「ハンガリーの占領と改革」 pp. 332-369.)
 2. 『講座国際政治』第3巻 木戸翁編著『現代世界の分離と統合』東京大学出版会, 1989, 1990年^{2刷}。361p.
(羽場久美子「独立以前の東欧における多民族共存と地域統合の模索」 pp. 177-238.)
 1. 菊地昌典編著『社会主義と現代世界』第1巻『社会主義革命』山川出版社 1989年。
(羽場久美子「東欧の革命——独自の道の挫折と再生——」)
- 5) 〈監訳, 共訳書〉6
〈羽場久美子監訳〉2
2. ジョセフ・ロスチャイルド著, 羽場久美子・水谷驥訳『現代東欧史 多様性への回帰』共同通信社, 489+28p. 1999年。
 1. アントニー・ポロンスキ著, 羽場久美子監訳『小独裁者たち——東欧における民主主義体制の崩壊——』法政大学出版局, 1993年。pp. 235+69p.

〈共訳〉4

4. ジョセフ・ロスチャイルド著，大津留厚監訳『大戦間期の東欧』刀水書房，1996年。
3. 『世界のマイノリティ事典』（東欧の項監訳），明石書店，1995年。
2. ルカーチ・テーケイ他著，羽場久滉子，家田修，南塚信吾他訳『ルカーチとハンガリー』，未来社，1989年。
1. シュガー＝レデラー編，東欧史研究会訳，『東欧のナショナリズム』刀水書房，1981年。

6) 〈事典編纂+共同編纂 項目〉編纂2冊+14編

2. 『中欧・東欧文化事典』編集代表 羽場久美子，丸善出版，2021年。（7月刊）

1. 『世界民族事典』（『東欧全般』監訳 羽場久美子）弘文堂，2000年。

〈共同編纂，項目執筆〉

14. 『スクリプナー百科事典』「東欧」，丸善出版，2016-7年。
13. 『イミダス』（2004-2008年）（項目編纂）「中・東欧」羽場久美子 2004年，2005年，2006年，2007年。E媒体で，2008年。
12. 猪口孝，田中明彦，恒川編『国際政治学事典』（地域紛争，ハンガリー事件，中欧），2005年。
11. 『国際政治経済辞典』東京書籍，2002年。
10. 『ニッポニカ百科事典』小学館，1998年。
9. 『ブリタニカ国際年鑑』ブリタニカ，1994年。
8. 「ハンガリー政治」担当『東欧を知る事典』平凡社，1993年。
7. 『現代政治学事典』ブレーン出版，1991年。
6. 『社会・労働運動大年表』労働旬報社，1986年。
5. 『日本大百科全書』小学館，1984年。
4. 『ソ連・東欧における日本研究』Directory Series VI，国際交流基金（共同編纂），1984年。

3. 『日本と東欧諸国の文化交流に関する基礎的研究』日本東欧関係研究会編（共同編纂），1982年。
2. 『東欧関係邦語文献目録』東欧史研究会編（共同編纂），1981年。
1. 『岩波西洋史事典（増補版）』，岩波書店，1981年。

6. 〈研究論文，小論文，メディア業績一覧〉（未整理分あり）

〈研究論文〉140+〈小論文〉61=201，〈書評論文19・翻訳論文3〉22，計223本
〈研究論文140〉〈小論文61〉

〈2021〉（3本）

- 140 羽場久美子「ヨーロッパの歴史的・世界的意義：危機からのレジリエンス（回復力）と規範力」『グローバル国際関係研究所論叢書』No.1. 2021年。
- 139 羽場久美子「イギリスのEU離脱後のEUにおける，アジアとの連携：コロナ危機を超えて——「イリベラル・デモクラシー（非自由主義的民主主義）は中国と結ぶか？——」『青山国際政経論集』第106号 2021年5月。
- 138 羽場久美子「『地域統合の起源』とアメリカの対欧州戦略——極東戦略との比較分析」『青山学院大学国際政経論集第106号 2021年6月』。18p

〈2020〉（5本）

- 137 Kumiko Haba, “Post-Brexit in Post-Corona: the UK, the EU, and Central East Europe—“Illiberal Democracy” and the Influence of China—”, *Brexit and After- Perspectives on European Crisis and Reconstruction from Asia and Europe*, Eds. by Kumiko Haba and Martin Hollands, EUSA Asia Pacific, Springer, 2020.
- 61 羽場久美子「学会会議任命拒否の波紋広がる思想統制——ニューメラーの警句——」『東京新聞』2020.10.13.
- 136 羽場久美子「ヨーロッパの統合とアジアの分断は，アメリカの世界戦略——アジアの共同をいかにつくるか？」『学術の動向』特集『アジア近隣

諸国との対立を超えて——学術ネットワークの構築』, 2020. 9月号。

- 135 羽場久美子「コロナ危機で大きく衰退する「先進国の末路」——欧米諸国の自壊と、排外主義の暴走」講談社現代イスメディア, オンライン 2020. 4.29. <https://gendai.ismedia.jp/articles/-/72177>
- 134 Kumiko Haba, “The United States’ Different Strategies of “New World Order” between Europe and Asia in Postwar Period”, 100 years of World Wars and Post-War Regional Collaboration and Good Governance—How to Make New World Order?—, Ed. by Kumiko Haba, Science Council of Japan, Aoyama Gakuin University, Kyoto University, March 2020.3. (230p) pp. 80–96.

〈2019〉(5本)

- 133 “Ukraine, Divided Nation between the EU/NATO and Russia”, *Resolving Regional Conflicts and Building Peace and Prosperity*, Ed. by Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University, 2019.
- 132 “Conflict and Economic War between the US and China—Power Transition and the War in East Asia—How to Avoid Conflicts and How to Establish Collaboration”, *Resolving Regional Conflicts and Building Peace and Prosperity*, Eds. by Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University, 2019.
- 131 「プロローグ 危機は打開できるのか?」, 「序 いま国際社会で何が起きているのか」, 「なぜ移民・難民が世界にあふれているのか」 「エピローグ 未来に向けて」羽場久美子編著『21世紀, 大転換期の国際社会——いま何が起きているのか?』法律文化社, 2019.1.
- 小 60 「外国人労働者の雇用——グローバル時代の共生と繁栄に向けて——外国人労働者 127万人に。19年4月より世紀受け入れ開始。予断許さない特定技能労働者」『経済産業新報』(11) 2019.2.1. No. 1819.
- 小 59 「日本主導の Mega FTA が世界貿易を牽引する年に! ——日欧 EPA が GDP5.2兆円押し上げ」『経済産業新報』(10) 2019.1.1–15. No. 1818.

TV NHK 日曜討論 1月13日(日)「2019年世界はどう動く?」 叢中三十二,
国分良成, 羽場久美子, 細川昌彦, 李鍾元, 渡辺靖, 2019.1.13.

〈2018〉(9本)

130 「ハンガリー「奴隷法」大規模デモが激化……なぜこんなことになったのか」『現代イスメディア』講談社, 2018.12.27. No. 59143.

129 「女性研究者の貧困をどう解決するのか?——博士号取得者, 非常勤講師」『学術の動向』2018.11. 査読有

小 58 「国際戦略, 歴史の教訓を活かす——奢る権力は久しからずや」『経済産業新報』(9) 2018.9.15. No. 1811.

小 57 「10年後に向け, 日本の自由貿易圏の再編——日 EU の EPA, アジア地域経済圏創設, AIIB, 一帯一路との連携」『経済産業新報』(8) 2018.8.1. No. 1809.

小 56 「朝鮮半島の南北首脳会談, 日本から知の提案を!——日本も独自の外交展開を」『経済産業新報』(7) 2018.5.1. No. 1803.

小 55 「知的財産侵害と制裁関税戦争?——安易な剽窃やコピーを戒める」『経済産業新報』(6) 2018.4.15. No. 1802.

128 「アジアの信頼醸成と和解——アメリカの対アジア戦略」『アジアの地域共同——未来のために』明石書店, 2018.3.

127 「アジア太平洋の国際関係と中国・北朝鮮——対立をいかに共同に変えるか」『アジアの地域協力——危機をどう乗り切るか』明石書店, 2018.3

小 54 「若者の未来に向けて——知のネットワーク形成と地域協働」『経済産業新報』(5) 2018.1.15. No. 1796.

〈2017〉(11本)

小 53 「グローバル人材の育成 3——IT, ロボットと人の共存: 中印の AI, IT の未来を中止すべき」『経済産業新報』(4) 2017.12.1. No. 1794.

小 52 「グローバル人材の育成 2——少子高齢化と女性の活用はどう対応する

- か]『経済産業新報』(3) 2017.11.15. No. 1792.
- 小 51 「グローバル人材の育成——優秀な頭脳労働者をどう受け入れるか?」『経済産業新報』(2) 2017.11.1. No. 1791.
- 126 「戦争, 大国の衰退と世界秩序再編——ロシア革命 100 年の現在から」『Arena』2017.11.
- 125 「先進国危機からの脱出——マクロンは新しい風を生み出せるか?」『情況』7月号。
- 小 50 「欧州選挙が日本経済に持つ意味——非正規雇用労働者に広がる格差への不満」『経済産業新報』(1) 2017.6.1. No. 1782.
- 124 「アジアの地域統合と共同シンクタンク構想」『アジアの地域統合を考える——戦争をさけるために』明石書店, 2017.3.
- 123 「ルベン氏に迫るマクロン旋風。移民受け入れ派の若手躍進」『週間エコノミスト』2017.3.28.
- 122 「東欧と EU の 100 年——ヨーロッパの未来」『ロシア東欧の 100 年——ロシア革命から現在まで』『神奈川大学評論』神奈川大学, 86 号 2017 年
- 121 「ロシア——「反 EU, 反移民」で高まる存在感。プーチンに接近する欧州の極右勢力」『週間エコノミスト』世界経済相予測 2017.1.10.
- 120 “Immigrants Xenophobia, and Terrorism”, (*The Unwinding of the Globalist Dream; EU, Russia and China*, S. Rosefelde, M. Kubaniwa, K. Haba, (Eds.), World Scientific, 2017.)
- 119 “Asian Power Shift” (*The Unwinding of the Globalist Dream; EU, Russia and China*, S. Rosefelde, M. Kubaniwa, K. Haba, (Eds.), World Scientific, 2017.)

〈2016〉(英語論文含む) (9 本)

- 118 「中国の対欧州戦略: 英国の離脱で強まる EU との関係 AIIB&『一带一路』構想に邁進」『週間エコノミスト』2016 年 9 月 13 日号。
- 小 49 「イギリスの EU 離脱」(インタヴュー)『マスコミ市民』2016 年 8 月。

- 117 「イギリスの EU 離脱」 フラタニティ, 7月号, 2016年7月12日。
- 116 「『EU 離脱』を選択した英国国民投票をどう見るか」『公明新聞』2016年6月。
- 115 「英 EU 離脱, パンドラの箱を開けた英国」『産経新聞』2016年6月27日。
- 114 「イギリス EU 離脱 英国の選択, 世界に波紋」識者座談会, 羽場久美子, 渡辺啓貴, 細谷雄一『毎日新聞』2016年6月27日。
- 113 羽場久美子・金香男「アジアの相互信頼に向けて」金香男編著『アジア共同体への信頼醸成に何が必要か——リージョナリズムとグローバリズムのはざままで』ミネルヴァ書房, 2016年3月。
- 112 論点「移民政策 世界が考えるとき」『読売新聞』2016年1月12日。
- 111 「2016年, 世界は大激変する」山内昌之, 中西輝政, 宮家邦彦, 羽場久美子, 伊藤俊之, 宮崎哲弥『文芸春秋』2月号, 2016年1月8日。

〈2015〉(1本)

- TV NHK 日曜討論 「揺れる世界 テロとどう向き合うのか」高橋和夫, 羽場久美子, 福田充, 村田晃嗣, 森達也, 2015年12月20日。
- 110 「パワーシフトと, AIIB・シルクロード構想——欧州と中国の共同——」季刊『国際貿易と投資』100号記念増刊号「変革を待つWTO, 拡大深化するFTA」国際貿易投資研究所(ITI)2015年10月。

〈2014〉(5本)

- 小48 「巻頭エッセー デモクラシーとナショナリズム」『神奈川大学評論』2014年。
- 109 「拡大EUの境界線とナショナリズム, 民主化——多様性の中の統合」『学術の動向』2014.8月号 pp.64-69。
- 108 「東欧激震の拡大——ウクライナを見る視点」公明グラフ2014年夏号, 2014年6月10日。
- 107 「東アジア共同体と大国」渡邊啓貴編「世界から見たアジア共同」芦書房,

2014年。

- 106 「パワーシフトとゼノフォビア」『学会会報』2014年。40-46p.
105 「パワーシフト——国家不安、領土紛争とゼノフォビア」特集 パワーシフト、『学術の動向』2014.1月号。pp. 26-35.

〈2013〉(9本)

- 104 「パワーシフトとアジアの地域統合の課題——欧州統合の知恵に学ぶ」『世界平和研究』2013. 秋季号, no. 199.
103 「EUはどこに向かうのか?」『歴史地理教育』2013, 11, No. 811.
102 「大国のパワーシフトとアジアの地域統合」特集『アジア新世紀——グローバル世界の中で』『神奈川大学評論』75号, 2013.7. pp. 22-33.
101 「ハプスブルク君主国とEU——ドナウ連邦構想」『ハプスブルク史入門』大津留厚編, 昭和堂, 2013.
小47. 「アジア「知」のネットワーク形成」『国際貿易』2013.7.9.
小46. 「アジアにおける日中関係の役割——東アジアの共同発展」『国際貿易』2013.4.16
100 Kumiko Haba, “Great Power Politics of Asian Regionalism and Japan’s Role” *Great Power Politics and East Asian Regional Cooperation*, WCFIA, Harvard University, Ed. by Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University, Tokyo, March 2013.
99 「尖閣・竹島をめぐる「固有の領土」論の危うさ——ヨーロッパの国際政治から」岩波『世界』2013.2.
小45. 「領土問題と東アジアの共同発展——問題凍結し, 相互信頼構築を」『国際貿易』, 2013.1.22.

〈2012〉(10本)

- 98 座談会 羽場久美子・岩下明裕・孫崎徹「国境問題を解決する道はどこにあるか。」岩波書店, 2012.12. 280p. pp. 189-222.

- 97 座談会 田中素香・羽場久美子・的場昭弘「EUの21世紀をめぐる——経済危機から統合の未来へ——」
特集：EUの21世紀「『神奈川大学評論』, 2012.11. no. 75., pp. 22-33.
- 小 44. 「アジアの連携, 国家越え「知」の結集の場を」『朝日新聞』オピニオン, 2012.9.24.
- 小 43. Kumiko Haba, Handle Diaoyu issue with care, *China Daily*, Tuesday, September 4, 2012.
- 96 「EUの歴史認識とジェンダー——書かれた歴史, 起こった歴史, 記憶された歴史」歴史認識とジェンダー『歴史評論』2012年8月号。
- 95 「EUの拡大とトラフィッキング(人身売買)——旧社会主義国からの人の移動と「人権侵害」」宮島喬・吉村眞子編著『移民・マイノリティと変容する社会』法政大学出版局, 2012.6.
- 94 「中欧アイデンティティの夢と現実——拡大EU・NATOのリアリティ——」
特集：中欧とは何か? 岩波『思想』, 岩波書店, 2012.4. no. 1056. pp. 9-29.
- 93 「ソ連の崩壊を西欧はどう受け止めたか? ——「民主主義」と全体主義に関する考察」『ソ連崩壊20年』2012.4 284p. 118-141.
- 92 「「ヨーロッパの危険地帯」, 中・東欧とバルカンの「戦略文化」——戦争, 安全保障, 「民主化」とEU・NATOの拡大」『安全保障・戦略文化の比較研究』国際政治, 167. 2012.1. pp. 189-222.
- 小 42 「拡大EUのゆくえ」『雑誌公明』2012.2.
- 〈2011〉(9本)
- 91 「世界史からの歴史教育の提言いかなる歴史認識を創っていくか? ——ヨーロッパ中心主義から新しい普遍主義へ」
特集：これからの大学学部の歴史教育, 『学術の動向』2011.10. pp. 56-59.
- 90 「拡大EU, 地域統合のガバナンス・モデル」押村高・中山俊宏編著『世界政治を読み解く』ミネルヴァ書房, 2011.
- 89 “The EU and NATO Enlargement and Central Eastern European Policy

- under the Influence of the USA—The Role of Poland in the EU and the Iraq War—”, 山本吉宣退職記念論文集, 『青山学院大学国際政治経済学部紀要』, 2011.6.
- 88 「仲間づくりの地域統合論——東アジアとEU——」仲間づくりの国際関係『学術の動向』日本学術会議, 2011.6.
- 小 41. 「第2次世界大戦氏国際委員会——占領経験——1931-49年, 国際関係史学会——移民と分界点——」特集 第21回国際歴史学会議アムステルダム大会(II)『歴史学研究』歴史学研究会編集, 2011.5.
- 87 「冷戦終焉後の「ヨーロッパの危険地域」——社会主義から民主主義へ, ソ連ブロックから拡大EUへ——」
「EU・NATOの拡大と中・東欧の「民主化」」羽場久美子・溝端佐登史編著『ロシア・拡大EU』ミネルヴァ書房, 2011.4.
- 86 “The EU Suggestion and East Asian Community as a Comparative Study as Norms and Institutions—Reconciliation with Enemies and Alliance with the US—”, *The Regional Integration in Asia and Europe, Theoretical and Institutional Comparative Studies and Analysis*, Eds. by G. John Ikenberry, Yoshinobu Yamamoto, & Kumiko Haba, Aoyama Gakuin University, 2011.3.
- 85 「拡大EUにおける境界線とシティズンシップ——ヨーロッパ・アイデンティティと, ゼノフォビア(よそ者嫌い)の相克——」『宮島喬教授退職記念論文集』『社会志林』法政大学, 2011.3.
- 84 「世界史の『周辺』におけるジェンダー——「トラフィッキング」と従軍慰安婦非難決議」『歴史教育とジェンダー——教科書からサブカルチャーまで』青弓社, 2011.

〈2010〉(5本)

- 小 40 「EUの現状から東アジア共同体を展望する」シンポジウム「日中関係の未来を展望する」研究誌『季刊中国』2010年冬季号, no. 103.
- 83 “The Origin of the Cold War and Eastern Europe—The Turning Point

from 1946–1948, Investigating from Hungary—”, *The End of the Cold War and the Regional Integration in Europe and Asia*, Eds. by Robert Frank, Kumiko Haba, & Hiroshi Momose, Aoyama Gakuin University, 2010.

- 82 「グローバル化とトラフィック——EU・日本に見る実態と戦略——」『ジェンダーと政治過程』日本政治学会編『年報 政治学』木鐸社, 2010年。2010-II 巻, pp. 174–193.
- 小 39 東アジア共同体構築と日本の役割 ③「世界一の金融・地域経済圏を——孤立回避へ「冷戦越え」EUに学べ」『日刊工業新聞』経営教室, 2010年3月24日。
- 小 38 “Japan-China Reconciliation is key of United Asia,” *International Herald Tribune (Herald Asahi)*, 16–17 January 2010.

〈2009〉(4本)

- 81 「冷戦終焉 20年と中・東欧——鉄のカーテン崩壊から現在まで」特集ベルリンの壁崩壊から20年を経て『歴史評論』716号, 2009年12月。
- 80 「冷戦の終焉とトラフィック」人の移動特集, 『歴史評論』713号, 2009年9月。
- 小 37 「東アジア共同体 日中和解を基礎に繁栄探れ」『朝日新聞』2009年11月22日。

〈2008年〉(7本)

- 78 “The Lesson of the EU Enlargement and the East Asian Community and Shanghai Cooperative Organization, What and How we can learn from the European Integration”, *50 Years Rome Treaty and EU-Asia Relations*, Ed. by Chong-ko Peter Tzou, Tamkang University, 2008.
- 77 “The EU Enlargement and the Border Question, Wider Europe”, *Melting Borders*, Eds. by Yagi and Satoshi Mizobata, Kyoto University Press, 2008.
- 76 「拡大EU・NATOと中・東欧の『民主化』」『世界政治叢書 ロシア・拡

大 EU』ミネルヴァ書房，2009年。

- 75 「拡大 EU に見る歴史的和解と東アジア共同体」『歴史教育年報』2008年。
- 74 「殺戮と荒廢の欧州から，平和と繁榮の欧州へ——変遷の要因」『Japan AALA』2008年10月号。
- 73 「拡大 EU とフロンティア」『フロンティアのヨーロッパ』山内進編，國際書院，2008年。
- 小 36 「コソボ独立 國際社会の不安定化懸念」『読売新聞』2008年3月28日。

〈2007〉(5本)

- 小 35 「國際政治をどう学ぶか，どう教えるか」『日本國際政治学会ニューズレター』2007.10.113号。
- 72 「拡大 EU の教訓と東アジア共同体」『海外事情』2007年6月。
- 小 34 「ハンガリー 56年事件と新史料，研究動向」『ユーラシア研究』
- 71 「EU・NATOの拡大とイラク戦争——中・東欧の加盟とアメリカの影響」『衝突と和解のヨーロッパ』山内進・大芝亮編，ミネルヴァ書房，2007年。313p. pp. 135-166.
- 70 “Democracy, Nationalism, and Citizenship in the Enlarged EU, The Effects of Globalisation and Democratisation”, *Intercultural Dialogue and Citizenship*, Eds. by Leonce Bekemans, Maria Karasinska-Fendler, Marco Mascia, Antonio Papisca, Constantine A. Stephanou, Peter G. Xuereb, Marsilio, Venice, 2007. pp. 601-620.

〈2006〉(4本)

- 69 (翻訳) クラウス・タマーシュ 「1956年のハンガリー放棄に関する國際関係上の諸問題——ソ連共産党中央委員会幹部会の決議，世界政治に関する決議——」2006年10月21日。クラウス講演報告論集。
- 68 「『イラク戦争後』の EU・NATO の拡大と中・東欧の國際関係」『國際問題』2006.10. no. 555.

- 67 「拡大EUとナショナリズム——民主化とグローバル化の帰結」『ヨーロッパの軌跡とベクトル』慶応大学出版会，2006年。
- 66 「総論 ヨーロッパの東方拡大——グローバル化とナショナリズムの相克」『ヨーロッパの東方拡大』羽場・小森田・田中編，岩波書店，2006年6月，全404頁。

〈2005〉(11本)

- 65 “NATO and EU Enlargement and the Central Europe”, *Globalization, Regionalization and the History of International Relations*, 2005 October, 512p, pp. 91–100.
- 64 「拡大EUとその境界線をめぐる地域協力——「地域からなるヨーロッパ」再考——」特集20世紀ヨーロッパ史の中の〈境界〉『歴史評論』歴史科学協議会変，校倉書房，665号，2005年9月，pp. 2–16.
- 63 「序論 新しいヨーロッパ——拡大EUの諸相」『新しいヨーロッパ——拡大EUの諸相』日本国際政治学会 有斐閣，2005年8月，178p+16p.
- 62 「NATOの東方拡大と欧州の安全保障——コソヴォ空爆からイラク戦争へ：アメリカの影」『21世紀の安全保障と日本』ミネルヴァ書房，2005年7月。
- 小33 「25カ国拡大ヨーロッパ，『世界秩序の構築』に向けて」『学術の動向』日本学術会議，2005年5月号。
- 61 「拡大EUの今日的意義——「世界秩序」の構築と内なる相克の克服」『海外事情』拓殖大学海外事情研究所，2005年2月。
- 60 「拡大EUと中・東欧，ワイドー・ヨーロッパ」『国際関係の中の拡大EU』（森井裕一編）信山社，2005年2月，326頁，pp. 225–249.
- 59 「欧州から見た，大中華圏」『大中華圏の実像』寺島・朱編，岩波書店，2005年。
- 58 「中欧地域の『転換』——その社会・政治的背景」『転換期の作法——ポーランド，チェコ，スロヴァキア，ハンガリーの現代美術』国際交流基金，

2005年。

小32 「私事白書」『ペトロテック』2005年。

小31 「多国共存の条件——3つの人質事件の反省から」『神奈川大学評論』2005年1月。

〈2004〉(7本)

小30 「EU拡大とカラーニングラード、ベラルーシ」ユーラシア諸国の動き『ユーラシア研究』第31号2004年11月。

57 “The Enlargement of the EU toward Central and Eastern Europe: Nationality, Ethnicity, and Security Questions”, 『EUの東方拡大』日本EU学会年報, 第24号, 2004年。

56 「拡大EU 新加盟国のインパクト—ポーランドの事例を中心に」『外交フォーラム』August 2004.

55 「欧州拡大とイラク戦争——新旧ヨーロッパの確執とアメリカの影——」『新しい歴史の動き』山川出版社, 2004.5.

小29 「EU 25ヵ国拡大と中・東欧の課題」『世界週報』2004年5月。

小28 「米欧主導時代の幕開け: EU 二五ヵ国体制へ」経済講座『読売新聞』2004年3月8日。

54 “NATO Enlargement and the Iraq War—Central and Eastern Europe under the shadow of the US—”, *Working Paper in the International Conference Russia and NATO: New areas for partnership in St. Petersburg*, 7 February 2004.

〈2003〉(5本)

53 「拡大EUと中欧意識の揺らぎ——ヨーロッパ・アイデンティティと中欧」『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』山川出版社, 2003年。

52 「ヨーロッパ拡大とハンガリーおよび周辺地域マイノリティの『民主化』」『EUの中の国民国家: デモクラシーの変容』日本比較政治学会編, 早稲田大学出版部, pp. 173–200, 2003年6月。

- 小 27 齊藤孝「国際関係学の道のり」私の歴史研究（聞き手：羽場久美子）『歴史評論』 no. 639. 2003 年 7 月。
- 小 26 「一つになれない欧州：イラク戦争の影響と今後」『毎日新聞』夕刊，2003 年 4 月 11 日。
- 小 25 「21 世紀の大欧州」『現代用語の基礎知識 2003』巻頭特集 2003 年 1 月。

〈2002〉（8 本）

- 51 「座談会：岐路に立つヨーロッパ，9.11. 以後の世界の中で」羽場久美子，下斗米伸夫，富永格，『神奈川大学評論』43 号，pp. 5-30，2002 年 11 月，43 号。
- 50 “The EU Eastern Enlargement and the Historical Relation between East Central Europe and Japan”, *Shakai Shirin (Hosei Journal of Sociology and Social Sciences)*, Vol. 49, No. 2, December 2002.
- 49 「歴史の中の社会主義再考：歴史の中の社会主義」木村英亮，羽場久美子，阪東宏，古田元夫，『歴史評論』2002 年 627 号。
- 48 「冷戦期のソ連・東欧関係の再検討——冷戦の起源から 56 年事件まで——」『歴史評論』特集：歴史の中の社会主義，2002 年 627 号。
- 小 24 「論壇 欧州右傾化の真相」1, 2. 『月刊・力の意志』2002 年 8 月，9 月。
- 小 23 「欧州の極右 急成長の陰にグローバル化」『朝日新聞』2002 年 5 月 23 日。
- 47 “Globalization and Nationalism in Post-communist East Central Europe —Yugoslavia and East Central Europe under the EU Enlargement—”, (Paper for ISA International Congress in Hong Kong, China), *Journal of International Economic Studies*, Hosei University, March 2002.
- 46 「『EU の壁』・『シェンゲンの壁』——統合の『外』にすむ民族の問題」『国際政治』特集：国際政治と文化研究，日本国際政治学会，129 号，2002 年 2 月。

〈2001〉(1本)

- 45 「中東欧とユーゴスラヴィア：民族・国家・地域」『国際問題』
特集：旧ユーゴスラヴィアの10年，日本国際問題研究所，2001年7月。

〈2000〉(11本)

- 44 「ソ連・東欧——社会主義の崩壊と現在——：崩壊した社会主義：過去、現在、未来」岩田昌征，中村裕，羽場久泥子，藤本和貴夫，『情況』2000年12月。
- 小22 「フィンランド，ハンガリー，ノルウェーを回って——国際会議参加・報告印象記」『ユーラシア研究月報』2000年11月。
- 43 “EU NATO Enlargement and Central Europe”，The EU Enlargement toward Central Europe and the Role of Japanese Economy, *Paper of International Symposium*, Hosei University, Tokyo, Japan (EUの東方拡大と日本経済の影響), 2002.
- 42 “Globalism and Regionalism in East-Central Europe: Nationality Problem and Regional Cooperation under the EU and NATO Enlargement” *Globalization, Regionalization and the History of International Relations*, Paper of 19th International Congress of Historical Sciences, Oslo, Norway, August, 2000. 国際歴史学会 CD Rom 所収, 2000.11.
- 41 “New Challenges of the Post-Communist Transition in East Central Europe in the era of EU Enlargement: Social Security and the Regional Cooperation for the Consolidation”, *Paper of VI IEES World Congress*, Tampere, Finland, July 2000. (スラヴ東欧学会世界大会著書所収)
- 40 「NATOの東方拡大と中欧：コソヴォ空爆と中欧のNATO加盟」(日本国際政治学会報告原稿)2000年5月。
- 39 “The EU Enlargement Towards Central Europe under the NATO Influence”, What EU Enlargement Means for the Post-communist East?, *Working Paper, ISA Annual Convention*, Los Angeles, 17 March, 2000.

- 38 「EU・NATOの拡大と中欧の民族・地域協力」『経済志林』, 第67巻3/4号, 2000年3月。
- 37 「東欧の変革10年と『中欧』社会——民主化の功罪——」『神奈川大学評論』特集: デモクラシー, 第35号2000年3月。
- 36 「『中欧』のNATO・EU加盟に伴う諸問題——グローバル化とポスト空爆の中で——」『ロシア・東欧学会年報』28号, 2000年2月。
- 小21 「東欧, 10年の変容と今後の課題」『図書新聞』2000年1月1日。

〈1999〉(6本)

- 35 「ルポ: ハンガリー大統領・首相に聞く。欧州回帰を目指すハンガリー: グローバル化の中の民族・社会問題」『世界』岩波書店, 1999年12月。
- 34 “Eastern Enlargement of “Europe” and Relations between Eastern Europe and Japan”, *Working Paper, Japan and Its Neighbors in the Global Village: Current and Emergent Issues*, Nanzan University International Convention, September, 1999.
- 小20 「欧州分断まねくユーゴ空爆停止を」『朝日新聞』論壇, 1999年4月7日。
- 小19 “East Europeans face hard economic times”, *The Daily Yomiuri*, March 16, 1999.
- 小18 「経済的グローバリズム 弱者保護へ問い直し必要」『読売新聞』1999年2月3日。
- 33 “The Expanding EU and Central Europe”, *Working Paper, ISA Annual Convention*, Washington D.C., February 1999.

〈1998〉(7本)

- 32 「東欧と冷戦の起源再考: ハンガリーの転機 1945-1949」法政大学『社会労働研究』1998年12月。
- 小17 「EUの東方拡大: 社会主義政党の復活と福祉社会課題への対応」『法政

大学同窓会会報』1998年12月1日。

- 31 「ハンガリーの総選挙と社会分析」『ロシア研究』27号, 1998年10月。
- 30 “The Origin of Cold War in Hungary—In Comparison with Japan”, *Tokyo Colloquium, Commission of History of International Relations, University of Tsukuba*, September 1998.
- 29 「ロシアと東欧の国際関係——歴史と現在: 東欧諸国の NATO・EU 加盟をめぐって」『ユーラシア研究』19号, 1998年秋。
- 28 “A Magyar történelem kutatása és oktatása Japánban”, MTA Történettudományi Intézete Honfoglalási Konferenciája, Budapest, 1996, *Working Paper*, 1998.
- 27 “Hungary and the Origin of the Cold War: The Turning Point from 1947–1948”, *Working Paper, The Aftermath of World War II in Hungary, AAASS Conference, Seattle*, 1998.

〈1997〉(3本)

- 26 「『ポスト社会主義』の東欧社会: 社会と民族」『ロシア・東欧学会年報』, 26号1997年。
- 25 「東欧の市民生活の実態: ハンガリーを中心に」『経済と社会』11号, 1997年10月。
- 小16 「東欧の『豊かさ』と日本の『貧しさ』」『国際文化会館会報』Vol. 8. No. 1. 1997年1月。

〈1996〉(2本) London Univ.

- 15 「東欧から見た英国」ヨーロッパの街から: リレーエッセー, 『読売新聞』欧州版, 1996年5月24日。
- 24 “The Co-operation and Competition for Return to ‘Europe’”, Division and Integration of “Another Europe”, *Spring Seminar in University of London, Occasional Papers*, No. 13, Ed. by The London Office of Hosei Univer-

sity, 1996.4.

〈1995〉(4本) Hungary, London Univ.

小14 「東欧で復活する社会主義政党」『月刊フォーサイト』, 新潮社, 1995年7月。

23 「1994年の回顧と展望: 現代, 東欧」『史学雑誌』, 1995年6月。

小13 “Közép Európáról Japán Szemmel” (日本から見た中欧), Európai Utas, Budapest, Marcius, 1995.

小12 「東欧の現実と社会主義『復活』」, 『朝日新聞』, 1995年4月17日。

〈1994〉(1本) Hungary

22 「近代東欧における民族と地域・国家再編: 民族とは何か」『歴史評論』, 1994年2月。

〈1993〉(2本)

21 「中欧と EC・NATO: 民族問題の成長の中で」日本国際問題研究所所報, 1993年12月。

20 「1992年の回顧と展望: 近代, 東欧」『史学雑誌』, 1993年6月。

〈1992〉(4本)

19 「中欧地域協力とヨーロッパ統合——ハンガリーを中心に——」『国際政治』(特集: 国家主権と国際関係論), 1992年, 10月。

18 “The Central European Regional Cooperation and European Integration —A Study of Hungary—”, *Japanese Slavic and East European Studies*, Vol. 13, 1992.

小11 「東欧の民族問題と地域協力」『本の窓』(特集民族問題), 1992年5月。

小10 「『中欧』に懸ける東欧の選択」『経済往来』1992年2月号。

〈1991〉(2本)

17 「1989年の『民主化』とは何だったのか」『窓』8号, 1991年 Summer。

〈1990〉

小9 「民族問題をめぐって」『朝日新聞』1990年2月1日。

〈1989〉(6本)

小8 「激変ハンガリーの行方」『読売新聞』, 1989年10月10日。

小7 「東欧に渦巻く改革の波: ポーランド・ハンガリーの行方を探る」(共)
『読売新聞』1989年7月11日。

16 「ペレストロイカ下の東欧——『多様性への回帰』——」『外交時報』, 1989年7月号。

小6 「ハンガリーの政治改革と現代史の見直し」『朝日新聞』, 1989年4月26日。

小5 「ハンガリー 1956年事件評価の背景と影響」『世界週報』, 1989年2月, 30号。

15 「ロシア革命と東欧」『現代史研究』1988年, 34号。

〈1988〉(2本)

14 「近代における中東欧の国家再編」『歴史学研究』, 1988年, 586号。

小4 「『ペレストロイカと東欧』考」, 雑誌『法政』, 1988年1月。

〈1987〉(2本)

13 「東欧における民族と国家——トランシルヴァニアをめぐる民族問題——」
『外交時報』1987年7・8合併号1240号。

12 「1986年の回顧と展望: 現代, 東欧」『史学雑誌』第96編第5号, 1987年6月。

〈1986〉(2本)

- 小3 (文献解題)「戦間期東欧の独裁体制とファシズム：ハンガリー歴史学の研究動向を中心に」『ソ連研究』第2号，1986年4月。
- 11 「ハプスブルク帝国の再編とスラヴ民族問題——『東・中欧連邦化』構想とスラヴ民族の『共存』——」『社会労働研究』法政大学，1986年1月，no. 32-2，pp. 45-95.

〈1984〉(東大講師)(4本)

- 10 「ハプスブルク帝国末期のハンガリーにおける民族と国家——『ドナウ連邦』構想による中・東欧再編の試み——」『史学雑誌』，1984年11月，第93編11号，pp. 1-36.
- 9 「ハンガリー社会主義における民族と国家——ドナウ流域諸民族地域における社会主義連邦化の試みと破綻——」『共産主義と国際政治』日本国際問題研究所，1984年33号9巻2，July-September，pp. 39-57.
- 8 「ハンガリー社会主義における労働者と農民」『西洋史学』，1984年6月，133号，pp. 1-19.
- 7 「ハンガリーにおけるルーマニア人少数民族問題」『国際関係学研究』津田塾大学，1984年3月10号，pp. 59-78.

〈1983〉(ハンガリー留学中)(1本)

- 6 “The Influence of Hitler’s Coming to Power on the Japanese Socialist Movement”, *A nemzetközi munkás mozgalom történetéből Évkönyv (The Historical Yearbook on the International Labor Movement)*, 1983, Budapest, Hungary.

〈1982〉(津田塾助手)(2本)

- 5 「ハンガリー革命における国家機構——タナーチ(評議会)権力の構造1919年——」『スラヴ研究』1982年秋，no. 30，pp. 33-70.

小2 「『日本と東欧諸国の文化交流に関する国際シンポジウム』の成果と問題点」(柴宜弘氏と共同)『歴史学研究』507号, 1982年8月。

〈1981〉(Dr.3) (3本)

小1 「ハンガリーの史料館」『現代史研究』30号, 1981年6月。

4 “Japan’s Cultural Relations with East-Central European Countries in Historical Perspective, II-3. Japan-Hungarian Relations.”, (co-with Shingo Minamizuka), 『東欧史研究』4号, 1981年6月。

3 「ハンガリー革命をめぐる研究動向——歴史的推移——」『国際関係学研究』津田塾大学, 1981年3月, 7号, 別冊II, 51-70頁。(1978.9-1980.3: ハンガリー科学アカデミー歴史学研究所に留学)

〈1978〉(Dr.1) (2本)

2 「クン・ベアラの革命論の形成過程——第一次世界大戦期のロシアにおけるクンの諸論文の考察——」『国際関係学研究』津田塾大学, 1978年3月, 4号, 31-46頁。

1 「ハンガリー王国内諸民族の共産主義組織形成に関する一考察——革命期ロシアにおける動向——」『歴史学研究』1978年8月, 459号, pp. 1-16.

〈書評論文〉19本

19. 2016 北村厚『ヴァイマル共和国のヨーロッパ統合構想——中欧から拡大する道——』ミネルヴァ書房, 2014年『西洋史学』2016年6月。

18. 2005 山口二郎『ブレア時代のイギリス』岩波新書, 2005. 『週刊朝日』2005年。

17. 2005 小倉欣一著『近世ヨーロッパの東と西 共和制の理念と現実』山川出版社, 2004年。『学鏡』, 2005年4月。

16. 2000 木村英亮『ロシア現代史と中央アジア』有信堂, 1999年, 『社会主義理論学会』会報, 第40号, 2000年4月。

15. 1998 阪東宏『ポーランド人と日露戦争』青木書店、『歴史学研究』1998年。
14. 1997 『岐路に立つ現代世界, 講座世界史。11. 混沌を恐れるな』東京大学出版会, 1996年。『歴史評論』, 1997年6月号。
13. 1996 星乃治彦『社会主義国における民衆の歴史: 1953年6月17日東ドイツの情景』法律文化社, 1994年。『社会経済史学』早稲田大学政治経済学研究所, 1996年4月。
12. 1993 堀林巧『ハンガリーの体制転換——その現場と歴史的背景——』晃洋書房, 『アジア経済』, 1993年1月。
11. 1991 家田裕子『ハンガリー狂騒曲』講談社新書『週間読書人』, 1991年12月。
10. Shingo Minamizuka, The Reform of Hungary—National Tradition and “The Third Road”—, *Acta Slavica Japonica*, Hokkaido University, 1991 March.9.
9. エゴン・クレンツ『国家消滅』徳間書店, 『図書新聞』, 1991年1月。
8. 1990 フランソワ・フェイト『ブダペスト蜂起 1956年』窓社, 『週間読書人』1990年6月。
- 7 Joseph Rothschild, *Return to Diversity, A Political History of East Central Europe since World War II*, New York, Oxford, 1989. and Charles Gati, *Hungary and the Soviet Bloc*, Durham, 1986. 『法政大学新聞』特集: ソ連・東欧の激動を読む, 1990年5月。
- 6 シュテファン・キェニエーヴィッチ『歴史家と民族意識』青木書店, 『歴史評論』, 1990年2月。
5. 1988 南塚信吾『静かな革命』東京大学出版会, 『地域研究ブックレビュー』, 東京外国語大学海外事情研究所, 5号, 1988年3月。
4. 1987 ロビン・オーキー『東欧近代史』勁草書房, 『東欧史研究』1987年10月10号。小島亮『ハンガリー事件と日本』中公新書, 『東欧史研究』1987年10月10号。

3. 1983 Peter Pastor, *Hungary between Wilson and Lenin: The Hungarian Revolution of 1918–1919 and the Big Three*, New York, 1976. Tibor Hajdu, *The Hungarian Soviet Republic*, Budapest, 1979. 『東欧史研究』6号, 1983年10月。
- 2 <史料文献紹介> 村田陽一編『コミンテルン史料集』『歴史学研究』515号, 1983年4月。
1. 1980 パムレーニ・エルヴィン編『ハンガリー史』恒文社『週間読書人』1980年9月。

〈翻訳論文〉3本

3. 1992 ミスリヴェッツ・フェレンツ「中央ヨーロッパ, そしてヨーロッパに続く道」『Quo』, 1991/92 Winter。
2. 1988 ルドルフ・アンドルカ, タマーシュ・ファラゴ「ハンガリーにおける産業化以前の家族構造」『社会労働研究』, 1988年3–4合併号。
1. 1982 ハランギ・ラスロー「ハンガリー＝日本文化交流の歴史と現状——第二次世界大戦後——」『日本と東欧諸国の文化交流に関する基礎的研究』日本・東欧関係研究会, 1982年4月。

7. 〈自著書書評〉25本

- 『移民・難民・マイノリティー欧州ポピュリズムの根源』彩流社, 2021年。
25. 『国際貿易』日本国際貿易促進協会, 2021年。
- 『21世紀 大転換期の国際社会』法律文化社, 2019年。
24. 『国際貿易』日本国際貿易促進協会, 2019年。
- 『アジアの地域共同——未来のために』2018年。
- 『アジアの地域協力——危機をどう乗り切るか』明石書店, 2018年。
23. 『国際貿易』日本国際貿易促進協会, 2018年。
 22. 『沖縄新報』緒方修, 2018年。
- 『アジアの地域統合を考える——戦争をさけるために』明石書店, 2017年。

21. 『沖縄新報』 緒方修, 2017年。
20. 『アジア月間新聞』, 2017年。
- 『ヨーロッパの分断と統合——拡大EUのナショナリズムと境界線——包摂か排除か』 中央公論新社, 2016年。
19. 『ロシア・東欧研究』 廣瀬陽子, 2018年。
18. 新刊紹介, EUSI (EU Studies Institute in Tokyo) Mail Magazine, 一橋大学, 2016年4月。
17. 新刊紹介, 『青山学院大学学報』 2016年6月。
16. Book Review, Motohide Saito, Kumiko Haba, *Division and Integration of Europe*, 2016, *Japanese Slavic and East European Studies (JSEES)*, Vol. 37, 2016.
- 『拡大ヨーロッパの挑戦——グローバル・パワーとしてのEU』 中央公論新社, 重版, 2014.
15. 『ロシア・東欧研究』 小山洋司, 2014年。
- 羽場久美子・小森田秋夫・田中素香編著 『ヨーロッパの東方拡大』 岩波書店, 2006年。
14. 『朝日新聞』 図書, 末澤恵美, 2014年4月。
13. 「Europe」 新刊紹介, 2006年。
12. 『日経新聞』 2006年。
- 『拡大ヨーロッパの挑戦——アメリカに並ぶ多元的パワーとなるか』 中公新書, 2004年6月。
11. Yoji Koyama, Kumiko Haba, *Challenges of the Enlarging Europe: Will it become a Multilateral Power Comparable to the US?*, 2004. *Russian and East European Studies (JAREES)*, Vol. 171, 2005.
10. 「Europe」 新刊紹介。2005年。
9. 『日経新聞』 2004年8月1日。「中・東欧からの視点」
- 『拡大するヨーロッパ 中欧の模索』 岩波書店, 1998年。
8. 「朝日新聞」 1998年。

『統合ヨーロッパの民族問題』講談社現代新書, 1994年。

7. 「朝日新聞」1994年。

6. 「読売新聞」1994年。

『ハンガリー革命史研究——東欧におけるナショナリズムと社会主義』勁草書房, 1989年。

5. 「図書新聞」1989年。

4. 「読売新聞」1989年。

3. 「朝日新聞」1989年。

2. 「週間読書人」1989年。

1. 「西洋史学」1989年。

8. 〈国際学会, 国内学会, 研究会報告〉241回 (未整理分あり)

★は招聘講義, 基調講演, *は国際会議 ()は報告回数

2021: (7回)

241 * International Studies Association Annual Convention, Las Vegas, April 9, 2021.

“The Power Transition and New-Regionalism by China and Russia”

240 * International Studies Association (ISA), Las Vegas, RA24: April 8th, 2021, The Growing Threat of Disintegration in the European Union, “BREXIT new-phase and the influence of China to the Eastern Half of the European Union.”

239 * International Studies Association Pay it Forward, April 1st, 3rd, 2021. Session 5. Co-authoring as a woman: tips, tricks and traps

238 * UNODC (国連薬物犯罪調査局) 2021.3.21. Globalization and Human Trafficking, 「グローバリゼーションとトラフィッキング (人身売買) ヨーロッパのジェンダー政策」

237 ★東北亜未来構想研究所 (INAF) 設立総会および国際シンポジウム,

2021.3.27

「21世紀, 米・中・EU, どこが新世界秩序をリードするか?: ヨーロッパの歴史的・世界的意義とレジリエンス(回復力)」

- 236 ★University of North Carolina, Chapel Hill, USA February 23, 2021
“Crisis and Resilience of Developed countries and Rising China—How to overcome the corona crisis and create stability and prosperity?—”

- 235 最終講義「21世紀, 米・中・EU, どこが新国際秩序をリードするか?」
「ヨーロッパの歴史的・世界的意義: 危機におけるレジリエンス(回復力)と規範力」青山学院大学 本多国際会議場, 2021年1月14日。

2020: (コロナ危機) (3回)

- 234 *12月 日本学術会議・青山学院大学・京都大学主催, 世界12か国国際会議 Worldwide International Online Conference by SCJ (Science Council of Japan), Kyoto University and Aoyama Gakuin University on December 3rd, 4th, 8th in 2020.

“The United States Different Strategy of “New World Order” between Europe and Asia in the Post War Period”, December 4th, SCJ.

- 233 「多極時代のEUと日本——世界における日欧EPA/SPAの意義」「EUの現況」「Brexit後のEUにおけるアジアとの連携の重要性——イリベラル・デモクラシーは中国と結ぶか? ——」日本EU学会大会11月8日(日)。
232 日本政治学会「アメリカの世界戦略と新国際秩序——EU統合とアジア分断の背景」地域統合の起源2020年9月。

2019: (8回)

- 231 NEASE NET「アジアの分断を超えて: 日中韓の連携」12月。
230 日本学術会議, 「近隣国との対立を超えて」「EUの統合とアジアの分断はアメリカの世界戦略」
日本学術会議講堂, 12月(この国際会議は, 『学術の動向』に特集掲載,

2020. 9月号。)

- 229 日本政治学会, 「Brexit と中東欧: 英国から中国との連携」11月。
- 228 ★* St. Petersburg National University, Inviting Professor, “Dead Lock of Democracy in the UK and the USA”, September 2019.
- 227 *EUSA Asia Pacific, Fudan University, China, “EU, Central Europa and 16+1 strategy of Chinese BRI”, July 5–6, 2020.
- 226 *ISA Asia Pacific, Singapore Nanyang Technological University, “Crisis of Europe and Asian Regional Collaboration”, ISA Asia Pacific, July 1–2, 2019.
- 225 ★* Sorbonne University INARCO, EJARN, Paris, “Japan-EU EPA and Regional Collaboration”, June, 2019.
- 224 *ISA, Toronto, “Brexit- Trump: Divided Democracy on Developed countries”, March 2019.

2018: (7回)

- 223 ★* First World War and Balkans, “Serbian Assassination and the Break-up of the World War”, Milan, November 2018.
- 222 ★* St. Petersburg National University, Inviting Professor, “Russia and the EU: Crisis of Developed Power, Power Shift, and New World Order”, and “Russia—Japan Relations and Asian Regionalism”, September 9–15.
- 221 *IPSA Conference, Brisbane, “Australia: Immigrants and European Crisis after BREXIT”, International Political Science Association, 2018.
- 220 *EUSA AP, Taipei, “BREXIT, Trump Government and the Declining the Big Powers”, EUSA AP, 2018.
- 219 ★* China, Beijing, University of Foreign Affairs in China, One Belt One Road Policy, China American Relations, and Chinese World Policy, June 25–27, 2018.
- 218 ★* China, Zhejiang University (浙江大学), Inviting Professor, “Asian

- Regional Cooperation in 21st century”, “Power Shift and East Asian Crisis: North Korea and the USA”, “Immigrants Question and European Crisis”, June 11–13, Zhejiang University, International Union Department, 2018.
- 217 *ISA, San Francisco, “Russia and Populist in Western Europe after BREXIT”, San Francisco, April 4–7, 2018.
- 2017: (7回) *International Conference (Invited)
- 216 ★*Rhodes International Conference, Rhodes, Greece: Never Again Power Transition and Regional Conflicts comparing Europe and East Asia (Invited), 6–7 October 2017.
- 215 日本政治学会研究大会, 2017年9月24日。
EU 統合への信頼性の揺らぎ—ポピュリズムと欧州政治の動態, [欧州のポピュリズムとロシア・プーチンの影], 日本政治学会, 2017年9月24日。
- 214 ★*Symposium between Russia & Japan, Russian Academy in Far East, Russia and Asian Pacific International Relations, Vladivostok, (Invited) 30–31 August 2017.
- 213 *EUSA Asia Pacific 2017 Tokyo Conference Aoyama Gakuin Univ. Tokyo, BREXIT and European Crisis—Immigrants & Terrorism (President), 2 July 2017.
- 212 *ISA Conference in Hong Kong, Hong Kong, Making Asian Think-tank Networks & the Training Young Leaders for Asian Future, 15–17 June 2017.
- 211 ★*Deutsche Bundes Bank, & University of Tokyo, Tokyo Election Time(s) in Europe, Challenges on the way to economic recovery, Immigrants & European Elections /Quo Va dis, Europe?, 23 May 2017.
- 210 *ISA Annual Conference in Baltimore, Baltimore, USA Ukrainian Ques-

tion among the EU, NATO and Russia, 25 February 2017.

2016: (7回)

- 209 ★* TIPSA Annual Conference in Taipei, Taiwan
Asian Regional Cooperation and the Security-Collaboration in Borders
(Invited), 23 October 2016.
- 208 *Peace Diplomats Forum, Tokyo
Immigrants, Refugees & Security: Why did Trump win?, 11 November
2016.
- 207 ★* 21st century Maritime Silk Road; Development Connectivity and Win-
Win Cooperation: International Conference, Shanghai International Affairs
Institute, Power Transition, Maritime Security and Collaboration among
China-Japan-Korea, 1-6 August 2016.
- 206 ★* United Nation University, Women's Association, Tokyo
Immigrants and Xenophobia, Home-grown Terrorism in the Enlarged EU,
13 June 2016.
- 205 ★* 中国南京大学 CHINA—East Asia International Symposium, Nanjing,
China
International Relations and Order in East Asia Power Shift, Territorial
dispute and Reconciliation in ASIA between China and Japan, 12 March
2016.
- 204 ★* 中国政法大学 China, University of Law and Politics, International
Relations, Economic Growth and Political Dispute: Antagonism and Rec-
onciliation in ASIA
- 203 ★* Rosefelde “Immigrants and Refugees in European Crisis”, (both
articles are one parts of Book), *The Unwinding of the Globalist Dream—
The EU, Russia and China*— March 2016.

2015: (4回)

- 202 日本ユースフォーラム YFJ 「大国のパワーシフトとアジアの地域統合」
2015.10.
- 201 *ICCEES Makuhari 2015, “Power Shift, Territorial Dispute and Regional Cooperation comparing the EU and Asia—The Role of Japan— 5. August 2015.
- 200 日本弁理士会 知財経営コンサルティング委員会, 「EU (欧州連合) の最近の情勢と日本の関わり: 「知の時代」によせて——知的財産グローバルネットワーク構築の戦略的意義」2015年2月5日。
- 199 日刊労働新報社 「グローバリゼーションとパワーランジション」2015年1月。

2014: (9回)

- 198 安全保障研究会
- 197 ★*Deli, India “Security, Sovereignty and Confidence building in the Indo-Pacific: A Perspective from Japan” *Regional Integration in the Indo-Pacific: Prospects and Challenges 24–25 November, 2014.
- 196 *ASEEES, San Antonio, USA, “Democracy and Nationalism in the Orbán Government”, 19 November 2014.
- 195 ★*Rhodes, “Asian Regionalism and Nationalism”, Rhodes “For the Solution of War & Conflict: Reconciliation in Europe and Asia, comparing the difference of the US Strategy” (Invited), 27 September.
- 194 *Ukraine, YES (Yalta European Strategy) Conference, Poloshenko, Tony Blair, Kiev. September 2014.
- 193 ★*Jeju, Korea One Asia Conference in Jeju, “Constructing Asian Academic Networks & the Common Asian Collaboration” (Invited), 2 August 2014.
- 192 *IPSA Annual Conference, Montreal, Canada, Canada “Power Game and

- Confidence Building under the American Rebalance Strategy”, IPSA, 20 July 2014.
- 191 *AHEA (Association for Hungarian Education Association) Florida University, USA “Hungarian Democracy and Nationalism—in the Orbán Government”, 21–23 May 2014.
- 190 ★* ICSSR Conference, India, “Constructing Asian Think-tank Networks & Global Human Resource Development” (Invited), 13–15 March 2014.
- 2013: (18回) (未整理)
- 189 初等社講演, 12月。
- 188 中野生涯教育, 講演, 12月。
- 187 *ASSEES, Boston, USA, 12月。
- 186 21世紀, ビジョンの会公演, 11月。
- 185 日本EU学会 共通論題, 11月。
- 184 ★* AICGS Political and Social Leadership Conference, Berlin, Germany, “Historical Reconciliation comparing between Europe and Asia, and the US Strategy” (Invited), 20 October 2013.
- 183 ロシア東欧学会, 共同シンポジウム, 講演, 10月。
- 182 日本政治学会, コメンテーター, 9月。
- 181 *Vladivostok, Russia, September 2013.
- 180 *Osaka, JAPAN, 8月。
- 179 華の会, 7月。
- 178 *ASPAC, Monterey, USA, June 2013.
Russia and International Relation, International Conference of EUSA AP, June 2016.
- 177 *Hungary, Budapest, Corvinus University, WISC Conference, May 2013.
- 176 *Thailand, Bogor, SCA, May 2013.
- 175 *ISA, Annual Convention, March 2013.

- 174 * Brussels, Belgium, “Power Shift, Territorial Dispute and Reconciliation in Asia between China and Japan”, February 2013.
- 173 ★* Poland, Lodz, “Power Shift, Territorial Dispute and Reconciliation in Asia between China and Japan”, February 2013.
- 172 * Rome, “Immigrants, Xenophobia & Home Grown Terrorism in the Enlarged EU, Why Xenophobia and Terror occurs in Western Europe?”, January 2013.
- 2012: (8回) (stay at Harvard University until September 2012)
- 171 ★* Key Note Speaker, “The Asian Regionalism comparing the European Union”, CHIR (Committee of History of International Relations), Sorbonne University, Paris, France, 13–14 December, 2012.
- 170 * “The Tohoku Disaster and the Energy Questions considering the Energy Policy in the EU”, SCA (Science Council in Asia), International Conference, Bogor, Indonesia, 11 July 2012.
- 169 “Xenophobia and the European Union under Globalism”, IPSA World Conference, Madrid, Spain, July 2012.
- 168 * “Japan and the Asian Regional Cooperation under the Major Power”, The Great Power Politics and the Future of Asian Regionalism, International Conference, WCFIA, Harvard University, 11 May 2012.
- 167 “The Democracy and Xenophobia in Central and Western Europe under the Enlarged EU”, Center for European Studies, CES, Harvard University, 18 April 2012.
- 166 * “The Asian Regionalism and Major Powers in the Global Age”, ISA (International Studies Association Conference), 2 April 2012.
- 165 * “The East Asian Community and the Global Power”, The Tohoku Disaster Conference, Tohoku University, 28 March 2012.
- 164 “Asian Regional Integration and the Role of the US”, The Turmoil of the

- Regionalism in Asia and Europe, (Director of Trans-Atlantic Security Project, collaborate with Karl Kaiser, WCFIA, Harvard University, 14 February, 2012.
- 2011: (7回) (stay at Harvard University from September 2011)
- 163 * “The Security of North East Asia and the Asian Regional Integration”, The North East Asian Security Collaboration and International Affairs, Renmin University, Beijing, China (Invitation Lecture), 5 November, 2011.
- 162 「日米同盟と、東アジア共同体——欧州との比較」『神戸大学 EUIJ 講演』2011年9月1日。
- 161 * “The Asian Regional Cooperation and the Role of the US”, WISC World Congress, Porto, Portugal, 19 August 2011.
- 160 * ASEAN+3, シンクタンク NEAT の会合, 日本代表の一人, (日本外務省・国際フォーラムの招聘) Vietnam, Danang, August. 8-10, 2011.
- 159 ★* 日インド外交政策会合, 講演「東アジアの地域統合とアメリカの役割」, (日本外務省による招聘・政策企画室) “The East Asian Community and the Reconciliation with the Enemies”, Japan-Indian Diplomatic Policy’s Official Meeting, Deli, India, 22 March 2012.
- 158 * 日 ASEAN 国際会議, EU 議長国ハンガリーにおける共同国際会議報告, EU の教訓と東アジアの地域統合」, (日本外務省による招聘・欧州局・ASEM 室)
- 157 The EU Suggestion and the East Asian Community as a comparative studies of Norms and Institutions, The EU and Japan, ASEM Conference by Japanese and Hungarian Foreign Ministries, Budapest, Hungary, 3 March 2011.

2010: (3回)

- 156 *ICHIS (国際歴史学会), 報告「第2次世界大戦期の占領と冷戦の起源」
第2次世界大戦研究委員会, Netherland, Amsterdam, 2010. August.
- 155 *Europe and Asia (ASEM) 国際会議, 報告, Belgium, Brussels, May
2010.
「東アジア共同体 拡大 EU からの提言」東アジア共同体研究会, 法政大
学日本学研究所, 2010年5月。
- 154 *Europeanization beyond the EU? EU Strategies, Determinants and the
Influence in its Eastern Neighborhood, International Studies Association,
Annual Conference, New Orleans, USA, February 17–20, 2010.

2009: (3回)

- 153 *Twenty years of the End of the Cold War and the Regional Integration,
CHIR (Committee of the History of the International Relations), Tokyo
Conference, Aoyama Gakuin University, Tokyo, 4–5 December, 2009.
- 152 「冷戦終焉 20年と中・東欧の市民社会」日本政治学会, 2009年10月11
日。
- 151 *Democratization of Central Europe and the Frontier of Enlarged EU-
Conflict between the EU Interest and National Interest, International
Studies Association (ISA), 50th Anniversary Annual Convention, New
York, USA, February 15–18, 2009.

2008: (5回)

- 150 「拡大 EU と東アジア共同体 地域統合の比較研究」日本政治学会・日本
学術会議共催, 2008年10月11日。
- 149 *East Asian Regional Cooperation and Shanghai Cooperative Organization
under the lesson of the Enlarged EU, Bangkok, Thailand, 26 July, 2008.
- 148 *Nationalism and Xenophobia under the Enlarged EU—Reformation of

the national border and boycott of immigrants, WISC World Conference, Ljubljana, Slovenia, 23 July, 2008.

- 147 「拡大 EU 下の、ナショナリズムとゼノフォビア」世界政治研究会、東京大学山上会館、2008 年 2 月 23 日。
- 146 「拡大 EU とネオ・ナショナリズム——グローバル化、民主化と、アイデンティティの相克——」神戸大学 21 世紀 COE プログラム「市場化社会の法動態学」「地域紛争研究会」2008 年 2 月 3 日。

2007: (16 回)

- 145 「拡大 EU の教訓と、東アジア共同体——欧州はいかに対立地域と信頼を醸成していったか？」
Comparative Studies between the Enlarged EU and the East Asian Regional Cooperation, Aoyama Gakuin University, International Symposium, 14 December 2007.
- 144 * “The Arc of Freedom and Prosperity and Prospects of Japan-Wider Black Sea Area Cooperation”, Black Sea Regional Cooperation and Cooperation with Japan, Foreign Ministry of Japan, Institute of Japanese International Affairs, 21 November 2007.
- 143 ★* “The Lesson of the EU Enlargement and the East Asian Community + Shanghai Cooperative Organization—What and how we can learn from the European Integration.—”, International Conference on the 50th Anniversary of the Treaty of Rome and EU—Asia Relations, Organizer: Graduate Institute of European Studies, Tamkang University, Ministry of Foreign Affairs, Taiwan, R.O.C., 20–21 November 2007.
- 142 「拡大 EU のナショナリズムとポピュリズム」「セッション ポピュリズム」日本政治学会大会報告、明治学院大学、2007 年 10 月 6 日。
- 141 「国際政治をどう教えるか、どう学ぶか」「国際政治学を考える」猪口孝コーディネーター

- 日本政治学会大会コメンテーター，明治学院大額，2007年10月6日。
- 140 * “The Enlargement of the EU and the East Asian Regional Cooperation”, Russia, Vladivostok, 7-12 September 2007.
- 139 * “Democracy and Neo-Nationalism under the EU Enlargement —The Effect of the Globalization and Democratization—”, ICCEES International Conference, Berlin, 1-6 August, 2007.
- 138 「拡大欧州の地域戦略 III, —NATO の拡大と中・東欧— 欧州の安全保障をめぐる, 拡大 NATO の意義と限界, 課題」慶応大学大学院政策・メディア研究科講演, グローバル・ガバナンスとリージョナル・ストラテジー, 2007年6月5日。
- 137 「拡大 EU のフロンティアと冷戦秩序の再編」一橋大学 EUIJ, EU Politics ワークショップ, 「EU のフロンティア—内と外」2007年6月2日。
- 136 「拡大 EU とネオ・ナショナリズム—グローバル化, 民主化と, アイデンティティの相克—」国際関係思想・研究ネットワーク研究会, 2007年3月30日。
- 135 「拡大 EU と東アジア共同体 (コメント)」 「東アジア共同体との比較研究」報告高原明生 (東京大学), 馬小軍 (中国中央党学校国際戦略研究所), 司会鈴木佑司 (法政大学) ヨーロッパ研究所成果報告会, 国際ワークショップ《ヨーロッパとアジア—地域統合と共存に向けて—》, 法政大学ヨーロッパ研究所, 2007年3月18日。
- 134 「拡大 EU と東アジア共同体—欧州から何が学べるか—」東海大学平和戦略研究所国際シンポジウム 2007年3月12日。
- 133 * “Comparative Studies between the Enlarged European Union and the East Asian Regional Cooperation”, AAS Conference in Boston, Harvard University, 25 March 2007.
- 132 * “Democracy, Nationalism and Citizenship in the Enlarged EU—The Effect of Globalisation and Democratisation—”, ECSA COE Conference in Padua, Intercultural Dialogue and Citizenship, Translating Values into

Actions A Common Project for Europeans and their Partners, Padua, 3rd March 2007.

- 131 * “The Enlarged EU and before and After the Iraq War”, ISA Conference, Chicago, 1st March 2007.
- 130 「グローバル化と、拡大ヨーロッパ——アメリカに並ぶ経済圏か、メガ・リージョンの対立か——」東京外国語大学オープンアカデミー、地球の将来を考える EU の現状と未来、2007年1月11日。

2006: (4回)

- 129 * “Lessons of the EU for Asian Regional Cooperation”, Joint Symposium New Visions for EU-Japan Governmental Research Conference, European Commission, Charlemagne Building, Brussels, 6 April, 2006.
- 128 * “Human Security and the EU Borders: minority, immigrants and conflicts”, Jean Monnet Project, Padua International Conference of Human Security and EU’s Role, 24 March, 2006.
- 127 * “Social Security and Nationalism Uprising of Central and Eastern Europe under the EU Enlargement and the Regional Cooperation”, ISA Conference at San Diego, March 23, 2006.
- 126 「中欧」の夢と現実——歴史の転換と、「ヨーロッパ回帰 (EU 加盟)」現代 MOT 美術館講座、2006年2月18日。

2005: (22回)

- 125 * “The Lesson of the European Union to the Asian Regional Cooperation”, Panel Discussion among Russia, Turkey, Central Europe, Korea, and China, Chair Kumiko Haba, EUSA-Asia Pacific International Conference, Keio University, Tokyo, 10 December, 2005.
- 124 * “Wider Europe and the Kaliningrad Question as the Border of the EU” Wider Europe, International Conference at Kyoto University, COE Pro-

- gramme of Kyoto University, 24–26 November, 2005.
- 123 「今EUで何が起きているのか『二速二元のヨーロッパ』と市民の反逆、欧州におけるナショナリズムの成長と格差の固定化」2005.10.29.
- 122 「拡大EU——内なる相克と「境界線」をめぐる国際関係」『日本地理学会中欧研究グループ』, 2005年10月23日。
- 121 * “The EU Enlargement and Border Questions, Kaliningrad”, Russia and European Union After Enlargement, New Prospects and New Problems, St. Petersburg University, Institute of International Relations, 7 October 2005.
- 120 * “NATO Enlargement and the Iraq War—The Role of Central European Countries under the Shadow of the US”, International Conference of the Conflict and Reconciliation of Europe, COE Project of Hitotsubashi University, 23 September, 2005.
- 119 「一橋大学公共政策大学院『EUの拡大』1. 「何故今、ヨーロッパ拡大なのか, 「ヨーロッパとは何か」2005年9月。
- 118 * “The EU Enlargement and Border Questions, Kaliningrad”, Wider Europe: Economy, Border, Minority, Security, ICCEES International Conference in Berlin, July, 2005.
- 117 「EUの東方拡大——アメリカに並ぶ経済圏と、内なる相克——」三井業
際研究所, 2005.7.1.
- 116 「中・東欧の民主化・市場化と経路依存性: 拡大EUからイラク戦争に見る, 中・東欧の『民主化』」比較政治学会大会, 名古屋大学, 2005.6.26.
- 115 「フランス・オランダでの欧州憲法否決はどのような意味をもつか。」『EU
憲法条約の影響と今後』NHK ラジオセンター (和田哲), 2005年6月8
日。
- 114 「拡大EUと、中欧のアイデンティティ」東京都歴史教育研究会講演会,
2005年6月4日。
- 113 「拡大するEUの現状と日本の課題——世界秩序の再構築へ」アイアंक

- ラブ, 定例午餐会, 2005年5月20日。
- 112 「拡大EUと、新しい「世界秩序」の構築」『地球宇宙平和研究所研究会』
2005年5月15日。
- 111 「拡大EUとワイダー・ヨーロッパ, —多元的世界秩序の構築と、内なる
相克の克服」『東京大学 DESK』2005年5月13日。
- 110 「拡大EU: アメリカに並ぶパワー, 世界秩序の再構築へ」『10大学合同
セミナー講演会』2005年4月25日。
- 109 「拡大EUの課題: 多元的世界秩序の構築と、内なる相克の克服」ヨーロッ
パ研究会(箱木), 早稲田大学, 2005年4月23日。
- 108 (NHK「こう変わるヨーロッパの暮らし」25カ国拡大EU, 拡大当日の
衛星放送。2005年4月1日。
- 107 「拡大EU—新しいヨーロッパ像の素顔と課題」婦選会館総合講座, 国
際社会の諸相と展望(市川房江記念館), 2005年3月23日。
- 106 「台頭する勢力: EU, ロシア」21世紀かながわ円卓会議『21世紀を構築
する』第1回『超大国の行方と日本の対応』湘南国際村センター, 神奈川
県葉山町, 2005年3月11-12日。
- 105 「拡大するEUの現状と課題—世界秩序の構築と、内なる相克」
参議院『国際問題に関する調査会』会議録, 第5号, 2005年2月28日。
参議院別館。
- 104 「拡大EU: 新しいヨーロッパ像の素顔と課題」『拡大EUと広がるヨー
ロッパ像』朝日カルチャーセンター拡大EU特集(羽場編), 横浜朝日カ
ルチャーセンター, 2005年1月22日。
- 2004: (7回)
- 103 「拡大EU: 多元的世界秩序の構築と、内なる相克の克服」同志社大学,
EU研究講演会, 2004年12月14日。
- 102 * “The EU and NATO Enlargement and Central Eastern European For-
eign Policy under the Influence of the US-A Non-European Perspective,

Pan European Conference at Haag, September 2004.

- 101 「EU 拡大は国際関係を変えるか——アメリカに並ぶ多元的パワーの登場」朝日カルチャーセンター，2005年7月10日。
- 100 「早稲田大学 GLOPE: ワークショップ，「EU の東方拡大と欧州憲法」21世紀 COE-GLOPE 大学院 EU カレッジ，第2回，2004年6月12日。
- 99 「EU の拡大と日本——アメリカに並ぶ多元的パワーの登場——」『経団連クラブ会員昼食会』2004年6月9日。
- 98 「拡大ヨーロッパの挑戦：アメリカに並ぶ多元的パワーとなるか：中・東欧の視覚から」東京大学 DESK，2004年5月14日。
- 97 * “NATO Enlargement and the Iraq War- Central and Eastern Europe Under the Influence of the US—”, Institute of International Relations University of St. Petersburg, St. Petersburg, Russia, 6–7 February 2004.

2003: (16回)

- 96 「ヨーロッパ統合におけるアイデンティティの揺らぎ——国家，民族，地域，自己認識」第25回国際学生シンポジウム分科会 L: 地域統合分科会: EU からアジアへ」2003年12月12日。
- 95 「EU の拡大と中・東欧の国家，民族，安全保障」欧州拡大研究会，日本貿易振興会 (JETRO) 海外調査部欧州か，2003年12月11日。
- 94 「EU の拡大と中・東欧の課題——国家，民族，安全保障——」共通論題: EU 拡大，日本 EU 学会，北海道大学，2003年11月1日。
- 93 「東欧の社会格差」(Discussant) ロシア・東欧学会共通論題: ロシア・東欧の経済・社会格差，京都産業大学，2003年10月4日。
- 92 「欧州拡大とイラク戦争——新旧欧州の確執とアメリカの影」[欧州研究会] 2003年9月25日。
- 91 * “Impact of NATO Enlargement on Central and Eastern Europe”, Baltic Rim in Common Europe: Part I, 16th Nordic and 4th Baltic Peace Research Conference: New Security Challenges as Challenges to Peace Research, St.

- Petersburg, 11–13 September 2003.
- 90 「冷戦の起源と終焉——ヨーロッパの分断と統合の『境界線領域』からみた冷戦——」京都大学 現代史研究会, 2003年7月19日。
「EUの東方拡大に関する政治・経済状況——新旧ヨーロッパの確執とアメリカの影——」2003年7月19日。
外務省経済局, 国際経済第1課, EU拡大ブリーフィング, 2003年7月17日。
- 89 * “The EU Enlargement and Minorities Living in the Border: Romania, Yugoslavia, Carpathia”, The EU Enlargement and the Minority Question, CEEISA/ISA International Convention, Budapest, Hungary, June 26–28, 2003.
- 88 「イラク戦争とヨーロッパの苦悩」新宿朝日カルチャーセンター緊急特別講座「イラク戦争と国際政治」2003年5月23日。
- 87 「新旧ヨーロッパの確執とアメリカの役割: EU・NATOの拡大と問題点」
「ヨーロッパの21世紀 アメリカの影の下で」東京大学DESK講演, 2003年5月20日。
- 86 * “The EU Enlargement and Central and Eastern Europe” (Discussant), The EU Enlargement and Japan-European Relations”, Waseda University, 17 May 2003.
- 85 「EUの拡大と中欧のアイデンティティ——European IdentityとNational Identityのはざままで——」京都大学COE: 歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ, 京大会館, 2003年4月27日。
- 84 「EU拡大と中欧のアイデンティティ——European IdentityとNational Identityのはざままで——」ハプスブルク帝国史研究会, 京都, 2003年4月3日。
- 83 * “The Enlargement of the EU and the Cooperation with Asia” EU and Japan Journalist International Conference, Athens, Greece. 25–28 March, 2003.

- 82 「EU・NATOの東方拡大と東アジア（政治・安全保障）」欧州研究会，2003年2月27日。
- 81 「冷戦の起源と終焉：冷戦とはなんだったか」冷戦史研究会，2003年2月8日。

2002：（13回）

- 80 「グローバルゼーションと欧州：EUの拡大と中欧」
- 79 「グローバルゼーションと欧州：NATOの東方拡大と中欧」新宿朝日新聞カルチャーセンター，2002.12.20，2003.1.10。
- 「EU拡大が中・東欧に与える政治・経済的影響」『外務省経済局・EU拡大セミナー』EU拡大の意義と，日EU関係に与える影響，2002年12月2日。
- 「NATOの東方拡大と欧州の安全保障——コソヴォ空爆からアフガン空爆，対イラク戦争へ——」21世紀安全保障研究会，沖縄ワークショップ，2002年12月1日。
- 78 * “The Enlargement of the EU towards Central and Eastern Europe and Cooperation with Asia”, Annual Conference of the Japan Association of International Relations, Awaji Island, 16 November, 2002.
- 77 「ハンガリーの体制転換からEU拡大まで」『ハンガリー友好協会ハンガリー講座』2002年11月8日。
- 76 「グローバルゼーションと欧州拡大」神奈川大学公開講座，2002年10月19日。
- 75 「EU拡大の進捗状況と加盟候補国の課題——9.11.テロ，各国総選挙，2002年夏の水害を踏まえて」拡大研究会，日本貿易振興会（JETRO）海外調査部欧州課報告，2002年10月4日。
- 74 「NATOの東方拡大と欧州の安全保障」九州大学，21世紀の安全保障，2002年9月21日。
- 73 「中欧へのEU拡大とハンガリーの総選挙」EUと東欧研究会，2002年7

月7日。

- 72 「グローバル化と欧州の東方拡大」 神奈川大学「EU研究会」2002年6月26日。
- 71 * “EU Integration I: Dynamics of Integration and Diversity” (Discussant), Managing the Recreation of Divisions in Europe, 3rd Convention of CEEISA, NISA, RISA, MGIMO, Moscow, Russia, 20–22 June 2002.
- 70 「EUの東方拡大と中・東欧——1989年の東欧の体制転換から、2001年テロと空爆後まで——」 東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究室 (DESK) 2002年5月31日。
- 69 「欧州拡大と極右の台頭」 民主党研究会, 2002年5月31日。
- 68 「冷戦期のソ連・東欧関係の再検討——冷戦の起源から56年事件まで——」 冷戦史研究会 (早稲田大学科研), 2002年4月6–7日。

2001: (2回)

- 67 「EUの東方拡大と中・東欧——1989年の東欧の体制転換から、2001年テロと空爆後まで——」 欧州拡大研究会, 日本貿易振興会 (JETRO) 2001年12月18日。
- 66 「コソヴォ後の中東欧情勢——EU・NATOの拡大と民族問題——」 防衛研究所, ロシア・東欧研究会, 2001年1月18日。

2000: (7回)

- 65 * “EU/NATO Enlargement and Central Europe”, The EU Enlargement toward Central Europe and the Role of Japanese Economy, Hosei University 21 International Symposium, October 1–3; October 3, 2000.
- 64 * “Globalism and Regionalism in East-Central Europe: Nationality Problem and Regional Cooperation under the EU and NATO Enlargement”, Globalization, Regionalization and the History of International Relations, 19th International Congress of Historical Sciences, Oslo, August 6–13,

August 11, 2000.

- 63 * “New Challenges of the Post-Communist Transition in East Central Europe in the era of EU Enlargement: Social Security and the Regional Cooperation for the Consolidation”, VI ICCEES World Congress Tampere, Finland, 29 July- 3 August, 31 July, 2000.
- 62 「NATO の東方拡大と中欧——中欧の NATO 加盟とコソヴォ空爆——」 NATO の東方拡大とヨーロッパの変動, 名古屋国際会議場, 日本国際政治学会 2000 年度大会, 2000 年 5 月 21 日。
- 61 「EU・NATO の東方拡大と中欧」国際開発協力銀行の開発研究プロジェクト「拡大 EU へ向けた中・東欧の国際関係と我が国経済協力のあり方」, 慶應義塾大学大学院, 2000 年 5 月 12 日。
- 60 「EU・NATO の東方拡大と中欧」『ヨーロッパ統合の行方』総括ワークショップ, (宮島喬研究会) 立教大学太刀川記念会館, 2000 年 4 月 22 日。
- 59 * “The EU Enlargement Towards Central Europe under the NATO Influence”, ISA National Convention, Los Angeles, March 17, 2000.

1999: (9 回)

- 58 「中欧の EU・NATO 加盟に関する諸問題——グローバルゼーションの中で——」『比較経済体制研究会』『関西ハンガリー研究会』, 大阪 1999 年 12 月 20 日。
- 57 * “Eastern Enlargement of ‘Europe’ and Relations between Eastern Europe and Japan”, Japan and Its Neighbors in the Global Village: Current and Emergent Issues, Nanzan University, Nagoya, International Conference, 16 October, 1999.
- 56 「EU の東方拡大と中欧への影響——グローバルゼーションとポスト空爆の中で」『ロシア東欧学会: 21 世紀のロシア・東欧: グローバリズムと国際環境』, 1999 年 9 月 25 日。
- 55 「ヨーロッパの東方拡大と NATO 空爆」平和の論理・戦争の論理, 『現代

を考える会』, 1999年7月5日。

- 54 「EUの中欧への拡大」『ヨーロッパ統合の深化と拡大』研究会, 1999年6月25日。
- 53 「EUの東方拡大と中欧」『ヨーロッパ研究会』(箱木), “The Expanding EU and Central Europe”, Association of European Studies, 17 April 1999.
- 52 「ハンガリーの総選挙と地方選挙」東京大学社会科学研究所, 1999年3月19日。
- 51 * “The Expanding EU and Central Europe”, Could Western Foreign Policy be helpful for Institution-Building in Transitional Economics?, ISA Annual Conference, Washington D.C. 17 February, 1999.
- 50 「NATO・EUの東方拡大とロシア」『法政大学国際共同研究(代表下斗米)』1999年2月1日。

1998: (6回)

- 49 「中欧の都市: ブダペシュト」『朝日カルチャーセンター』1998年10月。
- 48 * “The Origin of the Cold War in Hungary and in Japan”, International Conference in Tsukuba, September 1998.
- 47 「EU拡大と民族問題」『桜美林大学国際学研究所講演会』, 1998年7月。
- 46 「EU東欧拡大」『法政大学同窓会講演』, 1998年6月。
- 45 「ヨーロッパ拡大とポスト社会主義」『国際政治十大学講演会』, 1998年5月。
- 44 「ハンガリーの議会選挙(1998年5月)」東京大学社会科学研究所, 比較体制研究会, 1998年3月19日。

1997: (7回)

- 43 * “Hungary and the Origin of the Cold War”, Hungary and the Second World War, AAASS 29th National Convention: Seattle, U.S.A. November 1997.

- 42 「東欧と冷戦の起源再考——ハンガリーの外交, 1945-1948」ロシア史研究会大会, 東京工業大学, 1997年11月。
- 41 「ポスト社会主義の東欧社会: 社会と民族」ロシア東欧学会共通論題: 脱社会主義過程の検証: ロシア・中東欧の市場と社会, 京都大学, 1997年10月。
- 40 「ポスト社会主義の中欧: ハンガリーを中心に」, 中央大学人文科学研究所以, 公開研究会1997年10月。
- 39 「東欧と冷戦の起源: ハンガリー・イギリスのアルヒーフを利用して」, 冷戦史研究会, 慶応大学, 1997年6月。
- 38 「東欧と冷戦の起源再考: ハンガリーの内政と外交」, 東欧史研究会, 1997年3月。
- 37 「東欧の民族, 地域, 国家: 国境外のハンガリー人」専修大学, ナショナルリズムと国民国家研究会, 1997年1月。
- 1996: (4回)
- 36 「冷戦の起源と東欧」早稲田大学, 『ロシア東欧部会研究会』社会経済研究所, 1996年12月。
- 35 * “Central European Integration towards the European Union: under the Impact of development of the Asian Economy”, AAASS 28th National Convention: Boston, MA. U.S.A. November 1996.
- 34 * “Magyar történelem kutatása és oktatása Japánban”, Magyarországi Tudományos Akadémia Történettudományi Intézete, Honfoglalás 1100 évfordulójának a történelmi konferenciája, Július, 1996.
- 33 “Cooperation and Competition for Return to Europe,” Division and Integration of ‘Another Europe’”, Spring Seminar: SSEES, University of London & London Office of Hosei University, University of London, May, U.K., March 1996.

1995: (3回)

- 32 “Kelet-Európe megszállása és a reformok japán szemmel: Az új japán megszállási kutatások irányzatainak összehasonlítása”, Budapest University of Economics, Budapest, Hungary, April 1995.
- 31 * “Japanese Studies on the Occupation and Reform in Eastern Europe —With Reference to a New Tendency of Studies on the Occupation of Japan—”, International Conference on Plans for making a New Democratic and Social Europe; Programmes and Reality: 1944–1945., Budapest, Hungary, February. 1995.
- 30 「統合ヨーロッパの民族問題」『ハンガリー日本大使館講演』, ブダペシュト, 1995年1月。

1993: (1回)

- 29 「近代東欧の民族問題と地域・国家再編」『歴史科学協議会大会』, 1993年9月。

1991: (1回)

- 28 「東欧のナショナリズムと地域連合」The Japanese Society for Slavic and East European Studies (日本スラヴ東欧学会) 大会, 1991年11月。

1988: (1回)

- 27 「近代における中東欧の国家再編」『歴史学研究会大会』, 1988年5月。

1987: (3回)

- 26 「ロシア革命と東欧: 民族・国家再編の観点から」
ドイツ: 西川正雄, ロシア: 和田春樹, 東欧: 羽場久泥子
『現代史研究会, ロシア革命記念大会シンポジウム』, 1987年11月。
- 25 「ロシア革命と東欧の国家再編」『ロシア史研究会, ロシア革命70周年記

念大会』, 1987年10-11月。

- 24 「現代東欧における民族と国家：トランシルヴァニアをめぐるハンガリーとルーマニアの民族問題」『津田塾大学国際関係研究所研究懇談会』, 1987年5月。

1986: (1回)

- 23 「コシュートと『ドナウ連邦』構想：Multi-national State と Confederation 試論」『連邦制研究会』, 1986年12月。

1985: (4回)

- 22 「第一次世界大戦と東欧の再編：基調報告」[オーストリア=ハンガリー帝国の崩壊におけるハンガリー側の諸問題]『東欧史研究会創立一〇周年記念大会』, 1985年10月。
- 21 「ハプスブルグ帝国の再編とスラヴ民族問題」『西洋近現代史研究会サマーセミナー』, 1985年8月。
- 20 「東欧の社会主義と民族問題」『朝日カルチャーセンター：講座東欧史』, 1985年7月。
- 19 「オーストリア=ハンガリー二重王国の解体とスラヴ民族問題」『東欧史研究会』, 1985年3月。

1984: (4回)

- 18 「『ドナウ連邦』構想による中東欧再編の試み」『日本国際政治学会小国部会』, 1984年12月。
- 17 「オーストリア=ハンガリー二重王国の解体とスラヴ民族問題」『史学会大会』, 1984年11月。
- 16 「ハンガリーにおける民族と国家」『現代歴史学研究会, 東京大学出版会』, 1984年9月。
- 15 「ハンガリー社会主義体制下における権力と民衆の実態」『津田塾大学,

国際関係若手研究会』1984年9月。

1983: (5回)

- 14 「東欧におけるナショナリズム: 旧ハンガリー王国諸民族の民族と国家のあり方をめぐって」『津田塾大学移民労働者研究会』, 1983年6月。
- 13 「ハンガリー革命における国家機構」『日本西洋史学会大会』, 1983年5月。
- 12 「社会主義における国家と大衆」『日本国際政治学会』, 1983年5月。
- 11 「ハンガリー革命における国家機構」『西洋近現代史研究会』, 1983年5月。
- 10 「ハンガリー革命における国家と大衆」『東欧史研究会』, 1983年5月。

1982: (1回)

- 9 「ハンガリー国家形成とロシア革命」『東欧史研究会』, 1982年7月。

1981: (2回)

- 8 「日洪文化協定の背景と成果」『日本と東欧諸国の文化交流に関する国際シンポジウム』1981年9月。
- 7 「ハンガリー・タナーチ共和国におけるタナーチ機構(1919年)」『東欧史研究会』, 1981年1月。

1978: (2回)

- 6 「ハンガリーにおけるルーマニア民族問題」『歴史学研究会西洋近現代史研究会サマーセミナー』, 1978年7月。
- 5 「第一次世界大戦下のハンガリー労働運動と左派社会主義者」『東欧史研究会』, 1978年1月。

1977: (3回)

- 4 「ルーマニア社会主義運動とトランシルヴァニア民族運動(1905年前後)」『東欧史研究会』, 1977年10月。

- 3 「革命期ロシアにおけるハンガリー共産主義者の成長過程：1917-1918」『現代史研究会』，1977年4月。
- 2 「ハンガリー共産党形成に関する一考察：革命期ロシアにおけるハンガリー王国捕虜革命組織の動向」『ロシア史研究会』，1977年2月。

1976：（1回）

- 1 「ロシアにおけるハンガリー王国捕虜革命組織形成過程」『東欧史研究会』，1976年7月。

8. 〈外部資金導入状況（2000年以降 2020年）〉41回

2020年—2021年（1, 3, 5年間） 研究代表者：羽場久美子

41. 2013-2015年，2020-2021年（計3年間） EU/European Commission, Erasmus Mundus 230万円，214万円，計444万円。
100 years of World Wars and New World Order. SCJ, Kyoto University and Aoyama Gakuin University

2019年—2022年（3年間） 研究代表者：羽場久美子

40. 日本学術振興会「日インド学術交流：Kurukshetra University + 青山学院大学・京都大学 114万円×2年間。計228万円。

2018年—2023年（5年間） 研究代表者：清水聡

38. 清水聡科研「地域統合の起源と，冷戦の終焉」20万×5年間。計100万円。

2017年—2020年（各1年，計4年間） 研究代表者：羽場久美子

- 35-38. 青山学院大学国際政治経済学部国際研究センタープロジェクト 40万円×4年間 160万円。

2017年—2022年（5年間）研究代表者：羽場久美子

35. 京都大学プロジェクト代表, 2021. 69万円。
34. 京都大学客員教授(京都大学プロジェクト代表延長), 2020. 50万円。
34. 京都大学客員教授, 京都大学プロジェクト代表, 2019. 70万円。
33. 京都大学客員教授, 京都大学プロジェクト代表, 2018. 70万円。
32. 京都大学客員教授, 京都大学プロジェクト代表, 2017. 50万円—70万円。

2019年—2020年（1年間）研究代表者：羽場久美子

31. 青山学院大学, 科研大型基盤奨励研究助成 150万円。

2018年—2019年（1年間）研究者受け入れ：羽場久美子

30. 学術振興会, Steven Rosefelde, 日本研究者受け入れ 30万円+20万円
50万円。

2016年—2017年（1年間）研究代表者：羽場久美子, 研究代表者：下斗米伸夫

28. 日本学術会議 大型研究プロジェクトマスタープラン「欧州とアジアにおける地域協働及び歴史的対立関係の修復に向けての総合的共同研究プロジェクト——シンクタンク形成と若手・女性研究者育成——」研究代表者：羽場久美子（2010年, 10億円：計画のみ）
28. (科学研究費補助金) 基盤研究B, 研究代表者：下斗米伸夫, (研究分担者) 30万円。

2015年（1年間）研究代表者：羽場久美子

27. 東芝国際交流財団 (外国人若手国際会議招聘) 100万円。
「西と東の出会い, 日本と世界の若者との文化研究交流」国際会議若手受け入れ

2013年—2015年（3年間）研究代表者：羽場久美子 ワンアジア財団寄付講座（500, 400, 300万円）1200万円

26. 2015年『世界とアジアの地域協力』（ワンアジア財団寄付講座 300万円）
25. 2014年『アジアの地域共同——安全保障, 経済, 文化』（ワンアジア財団寄付講座 400万円）
24. 2013年『アジア地域統合を考える——グローバル時代のアジア——米欧との比較』（ワンアジア財団寄付講座 500万円）

2013年—2015年（3年間）研究代表者：羽場久美子（300万+150×2=300+250万円：出版助成）計850万円

23. 青山学院大学, 総合研究所, 課題別研究「ヨーロッパとアジアの地域統合の比較研究——境界, 社会保障, 和解」

2013年—2015年 研究分担者として（5件）科研基盤A, B

22. 東京大学 研究代表者：沼野充義 2013–15年, 研究分担者 20万
21. 東京外国語大学 研究代表者：渡邊啓貴 2013–15年の研究分担者 50万
20. 法政大学 研究代表者：船橋晴俊 2013–15年の研究分担者 30万
19. 奈良女子大学 研究代表者：三成美保 2013–15年の研究分担者. 30万×3年間=90万円。
18. 駒澤大学 研究代表者：片岡栄美 2013–15年の研究分担者. 20万×2年間=60万円。

2012年—2014年 研究分担者（4件）科研基盤A

17. 一橋大学 研究代表者：大芝亮（2年間）の研究分担者 30万×2年間=60万円。
16. 東京外国語大学（2年間）研究代表者：渡邊啓貴 の研究分担者 50万×2年間=100万円。

2008-2013 年（5 年間） 科研，基盤研究 A，研究代表者：羽場久美子（800-900 万円 / 年）

15. 「国際政治に見る欧州と東アジアの地域統合の比較研究——規範，安全保障，国境，人の移動」計 4186 万円。

2008-11 年（4 年間） 研究代表者：羽場久美子（300 万×3 年間+出版助成 300 万）

14. 青山学院大学総合研究プロジェクト「拡大ヨーロッパと東アジアの地域再編——地域統合，安全保障，社会政策+の比較研究」850 万円+300 万円。

2009 年-2010 年（1 年間） 研究代表者：羽場久美子

13. 「冷戦と地域統合——アジアとヨーロッパの国際比較」（国際会議支援資金）（冷戦終焉 20 年：CHIR）国際交流基金 164 万 9 千円。

2004 年から 2009 年（5 年間） 研究代表者：羽場久美子

12. 「拡大 EU の境界線をめぐる民族・地域格差とヨーロッパの安全保障（アメリカの影響）」（科学研究費補助金）（基盤研究（基盤研究 B）（研究代表者：羽場久美子）） 550 万円。

2005 年 9 月から 2008 年 6 月（4 年間） 研究代表者：羽場久美子

11. 拡大 EU をめぐる諸問題——国家と民族，拡大 EU の東アジア地域協力への教訓（単独）
欧州連合（EU），（ジャン・モネ・チェア）360 万円。

2005 年から 2008 年（3 年間） 研究代表者：大芝亮

10. 一橋大学 COE プロジェクト（文部科学省補助金・助成金）（COE（研究分担者）） 20 万円×3 年間=60 万円。

2005年4月から2008年3月（3年間）研究代表者：山内進

9. 「ヨーロッパのフロンティア」（一橋大学 EUIJ プロジェクト）

2004年4月から2008年3月（4年間）研究代表者：渡邊啓貴

8. 米欧同盟における EU の「人間の安全保証ドクトリン」（科学研究費補助金）（基盤研究（B） 渡邊啓貴，） 4500 万円（研究分担者）

2004年4月から2008年3月（4年間）研究代表者：毛里和子

7. 「冷戦とアジア」（分担）（科学研究費補助金）（基盤研究（A） 毛里和子，）
7000 万円（研究分担者）

2004年4月—2005年3月（1年間）研究代表者：羽場久美子

6. 国際会議補助費（研究分担者）国際交流基金，国際会議補助費，200万円。

2004年1月から2004年6月 研究代表者：羽場久美子

5. EU 拡大に伴うヨーロッパ・アイデンティティと民族・国益の相克（単独）
（学術振興野村基金 海外派遣助成）パリ大学第1：Pantheon 50万円。

2000年—2005年（4年間）研究代表者：谷川稔

4. 京都大学 COE プロジェクト（文部科学省・助成金）人文科学研究科——
谷川稔（COE 研究代表者）研究分担者，20万円×4年間=80万円。

2003年—2005年（3年間）研究代表者：菅英輝

3. 九州大学科学研究費補助金，「冷戦と安全保障」菅英輝，（研究分担者）20
万円×3年間=60万円。

2000年—2005年（5年間）研究代表者：羽場久美子

2. 「EU の東方拡大と中欧政治」研究代表者 羽場久美子 110万円。

青山国際政経論集

(科学研究費補助金) (基盤研究 (C)) 計 440 万円。

2000 年 4 月から 2001 年 3 月 研究代表者: 百瀬宏

1. 国際会議補助費 (日本学術振興会 国際会議補助費) 200 万円 (研究分担者)

★(2000 年以降の研究助成金に限定)

以上 (未記入の研究論文, 国際・国内会議等あり)

2021 年 3 月 31 日

青山学院大学国際政治経済学部・青山学院大学大学院 国際政治経済学研究科

教授 羽場 久美子

青山学院大学 名誉教授 羽場 久美子